

天神森の杉  
青空高く  
のよう  
夢を抱く



栗原市立萩野第三小学校閉校記念誌

ありがとう  
～みらいにつなぐ栗原市閉校記念誌～

2014.03



## あいさつ

萩野第二小学校の閉校に寄せて	栗原市長	佐藤 勇	1
萩野第二小学校の閉校に寄せて	栗原市教育委員会教育長	亀井 芳光	2
心のふるさと萩野第二小学校	栗原市立萩野第二小学校校長	菅原 至	3
挑戦・感動・飛躍・夢	栗原市立萩野第二小学校父母教師会会長	安藤 岳人	3

## 校歌

4

## 萩野第二小学校沿革史

5～6

## 学校の概要

7～8

## 歴代校長

9～10

## 歴代父母教師会会長

11～12

## 寄稿文

～歴代校長～	萩野第二小学校の閉校に寄せて	第27代校長	加賀谷宏次	13
	萩野第二小学校でのあれこれ思うこと	第28代校長	大和 圭	13
	萩野第二小学校の思い出	第29代校長	菅原 勝	14
	複式学級編制のなかで学年別授業をめざした思い出	第30代校長	久保田弘毅	15
	母港	第31代校長	山本 政弘	15
	忘れえぬ 萩野第二小学校	第32代校長	佐藤 博	16
	強い絆の中での幸せな2年間	第33代校長	齋藤 圭子	16
	夢と感動の萩野第二小学校	第34代校長	栗原 淳一	17
～元職員～	46年間の思い出		小野寺チヨ	18
	「おばちゃん」の応援歌		千田くに子	18
	思い出 ありがとう		千葉ムツ子	19
	目を閉じると…		千葉 博美	19
	宝物のいっぱい詰まった萩野第二小学校の思い出		菅原眞知子	20
	「明日に生きる子ども！みんな大好き」感動をありがとう		後藤 忠義	20
～お世話になった皆様～	萩野第二小学校の閉校に寄せて	栗原市議会議員	小岩 孝一	21
	萩野第二小学校の閉校に想う	栗原市議会議員	三浦 善浩	21
	区民のシンボル萩二小	天神森っ子守り隊隊長	小野寺 昭	22
	閉校に寄せて	萩二小新校舎落成記念事業実行委員長	佐藤 傳	22
	萩野第二小学校の閉校にあたって	第39代父母教師会会長	及川 裕雅	23
	思い出の萩二小	民生委員児童委員	菅原 英夫	23
	さらば萩野第二小 児童に感謝と別れを告げて	天神森太鼓指導者	早坂 定光	24
	素晴らしき萩野第二小学校	有壁駐在所長	門傳 賢	24
～卒業生～	私の思い	昭和28年度卒業	小野寺昭二	25
	忘れられない萩二小	昭和30年度卒業	鈴木 祥司	25
	大自然と遊びの天才たち	昭和36年度卒業	阿部 一信	26
	まほうの心	昭和38年度卒業	千田 有作	27
	子どもは地域の宝	昭和41年度卒業	千田 修子	27
	学舎の閉校に寄せて	昭和46年度卒業	鈴木 秀一	28
	萩野第二小学校閉校に寄せて	昭和51年度卒業	熊谷 等	29
	萩野第二小学校とその後の新小学校へ	昭和54年度卒業	佐藤栄利子	29
	小学校の思い出と閉校に寄せて	平成元年度卒業	千葉耕太郎	30
	タイムカプセルの思い出	平成6年度卒業	千田さおり	30
	萩野第二小学校ありがとう	平成14年度卒業	三浦 寿伸	31
	萩二小の良いところ	平成21年度卒業	佐藤 佑香	31

## 在校生・職員寄せ書き

32～36

## 思い出のアルバム

37～39

## 編集後記

閉校記念誌部長 千葉 和義 40



## 萩野第三小学校の閉校に寄せて

栗原市長 佐藤 勇

自鏡山からの清らかな流れを守り続ける金流川が、緑に白萩が映える山あいを穏やかに流れる自然豊かなこの萩野の地で、子どもたちに多くの学びを与えてきました萩野第二小学校が閉校するにあたり一言ごあいさつ申し上げます。

明治6年に前身の赤児尋常小学校、赤児尋常小学校普賢堂支校が開校し、昭和4年に現在の場所に萩野第二小学校として新たに開校されました。開校以来141年にわたる長い歴史をもつ萩野第二小学校は、地域住民の方々の学校教育に対する御理解、御協力のもと、地域の温かな目に見守られ、健全な児童育成の伝統を築き上げてこられました。

恵まれた教育環境の中、学校及びPTAまた児童個人にわたり幅広い分野において多くの優良受賞をされており、多くの優れた人材を世に送り出し、県内外におきまして、広く御活躍されておりますことは、地域皆様の長年にわたる温かい御支援の賜であり、厚く御礼申し上げます。また、歴代の校長先生をはじめ、教職員、関係者の皆様の並々ならぬ御尽力に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、長い歴史のある萩野第二小学校では、開かれた学校を目指し、保護者をはじめ地域の方々の学校教育に対する関心が高く、運動会や学芸会などは地域を挙げて参加されており、通学路の清掃活動や防災訓練では天神森っ子守り隊のサポートをいただくなど、地域と学校との確かな信頼関係を築いてこられました。

「明日に生きる子どもの育成」を教育目標に、縦割り活動や地域住民の皆さんとの行事を通して、年代を問わず多くの方々との交流を積極的に行うことで、高い志を持ち、豊かな心、たくましい心を育まれております。「かしこく・やさしく・すこやかな児童」を目指した教育の中で、伝統となっている一輪車と天神森太鼓の継承には、全校を挙げて取り組んでこられました。一輪車の習得においては、校内での検定を行うなど、目標に向かって互いに励まし合いながら練習を重ね、その成果を運動会で発表するほか、多くの大会に出場し、優秀な成績を収めてきたところであります。また、学芸会で発表する天神森太鼓や新天神森太鼓では、元校長先生等を講師に招いて指導を受けるだけでなく、人生の先輩としてその生き方に触れ、学ぶことで地域の一員としての自覚を高めてこられました。これらの伝統的な取り組みを通じて、学校と地域が一つとなり、子どもたちを健やかに、そしてたくましく育てられてきたものと感じております。

また、学校生活等における約束事を決めた「萩っ子のやくそく」を独自に作成され、全校で取り組まれました。これは、学校生活のみならず、家庭生活においても意義のある内容が定められており、これを実践することで基本的な生活習慣の徹底が図られたことは、市内小学校の取り組みにおきましても良き模範として挙げられるものであります。

このように歴史と伝統ある萩野第二小学校が、今日の社会的な問題である少子・高齢化の傾向による児童の減少などの背景から、栗原市においても学校の再編が避けられず、本年3月31日をもって校史を閉じることとなりましたことは、非常に残念でなりません。これまで萩野第二小学校を巣立った皆様にとって、母校の閉校は何事にも耐え難い寂しさであり、また、地域の皆様の愛惜の念も深いものがあると拝察いたします。しかし、ここで歴史が終わるのではなく、これからは次代へ萩野第二小学校の歴史と伝統が受け継がれていくよう願うものであります。

今後、「学府くりはら」の実現に向けて、教師と子どもたちがしっかりと向き合い、学校生活に満足感や達成感がこれまで以上に得られる教育環境づくりを目指すとともに、萩野第二小学校が育んだ歴史が長く受け継がれ、新しい地域の歴史が築かれていくことを心から御祈念申し上げ、閉校記念誌発刊のあいさつといたします。



新旧校舎（平成6年度）



## 萩野第二小学校の閉校に寄せて

栗原市教育委員会

教育長 亀井 芳光

平成26年4月、萩野第二小学校は沢辺小学校・金成小学校・萩野小学校・津久毛小学校と再編し、新生「金成小学校」として、金成中学校とあわせて栗原市で初めての小中一貫教育校として、現在の中学校敷地に建設された新校舎でスタートすることになりました。再編にあたり、ご理解とご協力をいただきました萩野第二小学区の皆様に心より感謝申し上げます。

萩野第二小学校は、明治6年に前身の赤児尋常小学校、赤児尋常小学校普賢堂支校が開校し、昭和4年に創設され、平成6年に現在の場所に校舎が建て替えられました。翌年7年には、普賢堂分校と統合し、141年間の歴史の中、多くの児童を卒業させてきました。中でも、普賢堂分校で体力向上のため取り組んでいた「一輪車」では、統合後もスポーツ活動の一つとして続けられていました。上級生の児童が下級生の児童の練習を見てあげたり、お互い教え合ったりし、全校児童が一所懸命取り組みました。その成果として、平成18年には、一輪車県大会にて14連覇という偉業を成し遂げました。

この一輪車活動は、校歌の歌詞2番にある、「よい子 励む子 素直な子 みんな仲よく 手をとって」そのものを感じられます。

平成20年には、学校歯科保健活動11年連続表彰を受け、児童の体力・健康づくりに積極的でした。

このような中、児童生徒数が著しく減少し、今後も減少傾向が続く現状を踏まえ、また、急激に変化する時代に生きる子どもたちの将来を考えると、学校再編は避けて通ることはできません。歴史と伝統に受け継がれてきた学校が地域から消えるということは、地域の皆様や多くの卒業生にとって、やりきれない寂しさを覚えるのは当然のことと思います。

再編後は、子どもたちも地区の皆様もこれまで脈々と受け継がれてきた萩野第二小学校の輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、新しい出会いを喜び、共に学び、励ましあいながら、新しい伝統を築き上げ、「地域とともに歩む 新しい学校」の創造に向けて取り組んでいってくださることを信じてやみません。その実現のためには、地域・家庭・学校・教育委員会はじめ関係機関との連携が大切であります。新たに仲間となる沢辺小学校・金成小学校・萩野小学校・津久毛小学校の子どもたち、保護者、地域の皆様との交流を深め、「再編してよかった」と語り継がれる新しい学校を創り上げていただきたいと願っております。

結びに、閉校にあたり、これまで永きにわたり萩野第二小学校を温かく見守り、支えていただきました地域の皆様に心より敬意と感謝を申し上げまして、閉校記念誌に寄せる言葉といたします。



写真提供 ユニオンエンタープライズ(株)

航空写真(平成25年度)



## 心のふるさと萩野第二小学校

栗原市立萩野第二小学校 校長 菅原 至

平成26年3月31日をもって萩野第二小学校の歴史に幕が降ります。そして平成26年4月1日からは「小中一貫教育校」として再出発します。現在の萩野第二小学校は赤児尋常小学校と末野尋常小学校が統合し萩野第二尋常小学校として昭和4年に創設されました。さらに歴史をさかのぼると明治6年の赤児尋常小学校と普賢堂支校、及び明治18年の有馬中等小学校末野分教場が出発点となります。振り返ってみれば萩野第二尋常小学校から85年、赤児尋常小学校と普賢堂支校から数えると141年にわたる年月、普賢堂から赤児、藤渡戸、末野を流れる金流川沿いを学区とし、栗駒山に抱かれ、地域の皆様に支えられながら教育を行ってきました。

平成7年には普賢堂分校を統合し、長年の地域の思いが結実したすばらしい現在の校舎が建設されました。現在の校舎は児童にとって学びやすい素敵につくりになっています。児童は地域の思いをしっかりと受け止め、教科の学習はもちろん、一輪車や天神森太鼓、新天神森太鼓等の新たな伝統を築きながら健やかに育ってきました。

校舎のある天神森に響く児童の声が聞こえなくなるのは寂しいかぎりですが、地域の人々の記憶に児童の姿や声がしっかりと刻み込まれ、語り継がれることと思います。閉校記念誌がその導きの糸としての役割を果たし、心のふるさととして卒業生や地域の人々に生き続けることを確信しています。

最後になりましたが、これまで萩野第二小学校を支えていただきました地域の方々や保護者の皆様、そして栗原市教育委員会をはじめ、栗原市当局の関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。また、これまで情熱をもって本校に勤務していただいた教職員の皆様に感謝申し上げ、挨拶といたします。



## 挑戦・感動・飛躍・夢

栗原市立萩野第二小学校 父母教師会会長 安藤 岳人

平成7年に現在の新校舎が出来て18年、赤児尋常小学校創立から数えると約141年の歴史を持つ本校が、今年度をもって閉校することになりました。新しい校舎は、その外観からまるでお城のようで、地域の方々にも愛されており、この校舎から子どもたちの姿がなくなるのは非常に寂しい思いもあります。とは言っても、金成地区の教育においては、幼保一体の幼児教育センターがあり、今回の再編で小学校、中学校が小中一貫教育校となり、子どもたちの教育環境が整備されていくのは喜ばしいことでもあります。

二小の活動では、運動会、学芸会が思い出深いものとなっています。小規模校の特長を生かし、子どもたちが大活躍できる場でありました。上級生ともなると、自分の競技・演技の他に係の仕事を行いほとんど休みなしの状況でした。それだけに、終わったあとの充実感は大きかったものと思います。また、運動会では、一輪車の演技を見るのを楽しみにしていました。特に今年は「二小最後の運動会」ということもあり、全校が一つになって一体感のある演技が見られました。

何かに「挑戦」し、それを乗り越えたときに大きな「感動」が生まれるのだと思います。挑戦を乗り越えたことが大きな「飛躍」となり、次の「夢」へとつながるのでしょうか。そのような思いを、ぜひ新たな小中一貫教育校でも味わってほしいのだと思います。子どもたち一人ひとりが輝いていた萩野第二小学校のよさを、小中一貫教育校に引き継がれることを望みます。保護者の皆様におかれましては、これまで以上に子どもたちを励ましていただくとともに、今後のPTA活動についてもご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、これまで子どもたちをご指導いただいた数多くの教職員の皆様、そして子どもたちを温かく見守ってくださった地域の皆様に心から感謝を申し上げ、閉校に寄せてのあいさつといたします。

# 栗原市立萩野第二小学校 校歌

大友眞一郎 作詞  
堀江 四郎 作曲

*mp* そのなも かおーれ しらはぎの  
*mf* わかいめ きよーく たくまし い  
*mp* よいこ つよいこ ただーしい こ みんな *mf*  
*f* な すこやか きもほ がらかに  
*mf* まなべよ はぎの だいにしょう(お)

一、その名もかおれ 白萩の

若い芽清く たくましい

よい子 強い子 正しい子

みんなすこやか 気もほがらかに

学べよ 萩野第二小

二、窓べに光る 中江川

普賢の教え うけついで

よい子 励む子 素直な子

みんな仲良く 手をとりあって

伸びろよ 萩野第二小

三、天神森の 杉のよう

青空高く 夢をだく

よい子 明日の子 郷土の子

みんな希望に胸ふくらませ

進めよ 萩野第二小

昭和四十一年 制定



年	歴代校長	沿革概要
明治 6		赤児尋常小学校・同 普賢堂支校創立
昭和 4	初 三塚 正	萩野第二尋常小学校創立
7	2 高橋 基資	
8	3 佐藤豊次郎	
11	4 佐竹 隆	
13	5 日下 忠平	校旗制定
16	6 佐藤 覺彌	萩野第二国民学校と改称
19	7 山本 正	
21	8 千葉 長治	
22	9 三浦 義勇	萩野第二小学校と改称
25		校舎・講堂・住宅の改築
27	10 野村鷹太郎	
28	11 鎌田 三男	
30	12 佐藤 信吾	町村合併により、金成町立萩野第二小学校となる
33	13 佐藤 壽	
35	14 佐藤 静男	
37		県教委指定「国語教育」公開研究
38	15 齋藤 松男	郡研究指定「社会科」公開研究
39		県P連より優良PTA表彰
40～41		文部省研究指定「分校教育」公開
41		校旗・校歌の制定
42	16 小山 松男	
43		郡研究指定「音楽科」公開研究
45	17 佐藤 節郎	
46～47		県教委指定「教授組織」公開研究
47	18 菅原 康夫	体育館落成
48		プール完成
49		教育百周年記念行事
50～51	19 二階堂豊後	校庭・校地の緑化推進 (PTA)
53	20 菅原 傳	宮城県沖地震
54		運動用具置き場設置
54～55		県教委指定「体力づくり」公開研究
56		郡小学校水泳大会 男子2位 男女総合5位
57	21 相澤 浩二	郡少年野球大会準優勝 郡少年少女球技大会野球優勝
58		校庭全面改修
59	22 相馬 範二	第6回全国小・中学校作文コンクール学校賞受賞
60		第2駐車場完成
61	23 高橋 哲哉	
62		県P連・安全会より優良PTA表彰
63	24 早坂 哲郎	校舎の窓をサッシ戸に変更
平成 元		水道施設、自転車置き場工事
2	25 伊東 悌二	低鉄棒増設
3		町教委指定「体育科」公開
4	26 菅原 一朗	郡小学校陸上大会女子総合優勝、一輪車県大会総合優勝
5		社会福祉協議会「ボランティア普及事業協力校」指定、新校舎建築敷地造成工事
6	27 加賀谷宏次	新校舎・体育館落成
7		普賢堂分校統合、校庭整地、プール完成 天神森太鼓開始 新校舎落成記念式典祝賀会
8		パソコン5台導入、キウイの棚作り



萩野第二尋常小学校創立当時(昭和4年)



修了生(昭和21年度)



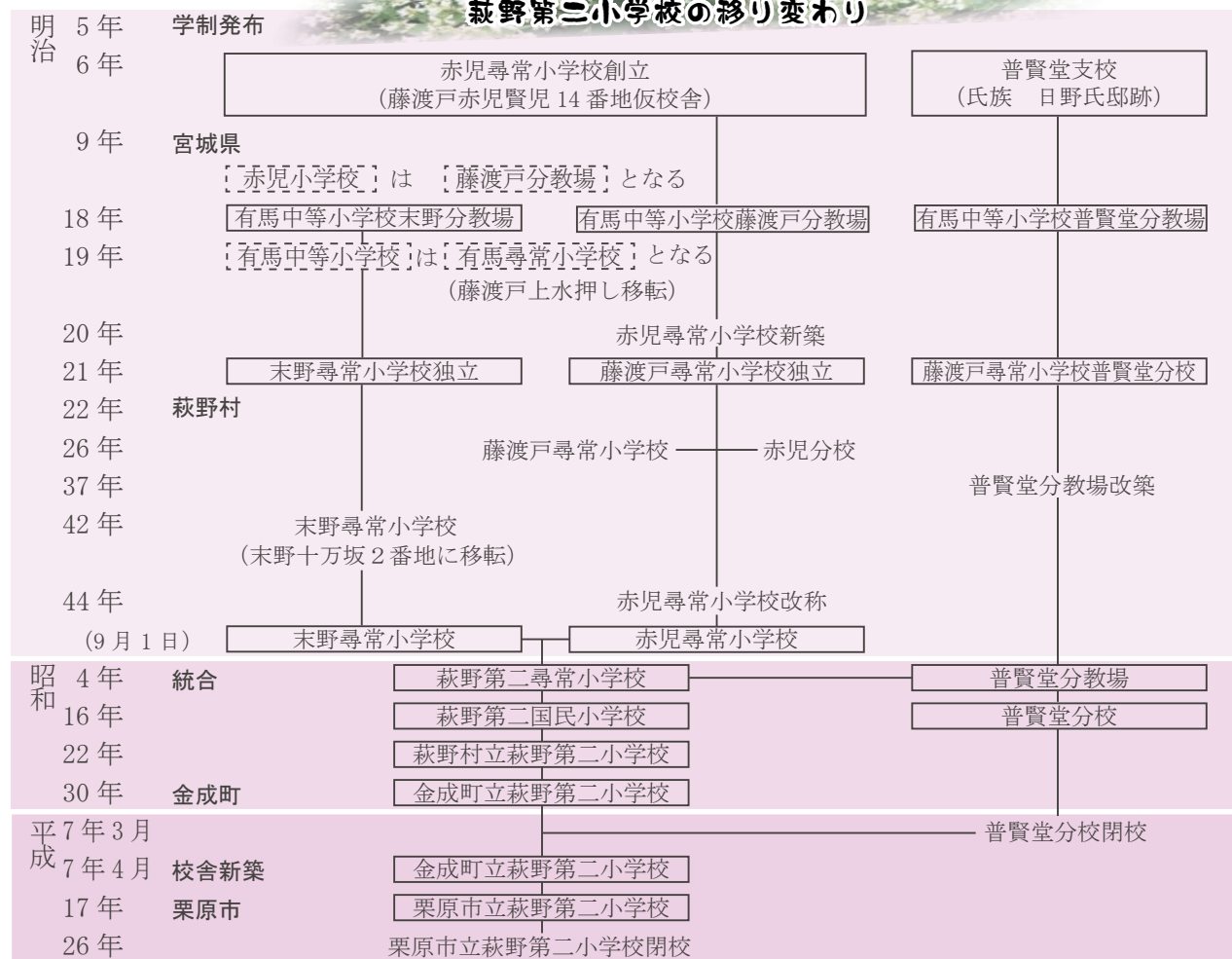
入学記念(昭和47年度)





年	歴代校長	沿革概要
平成 9	28 大和 圭	みどりの日植樹「さざんか 10 本」校舎法面崩壊復旧工事
10		町教研指定「生活科・理科」授業公開 よい歯の学校表彰
11		開校 7 0 周年記念航空写真撮影 よい歯の学校表彰
12	29 菅原 勝	米作り体験（田植え・稲刈り） 歩道橋パネル設置 町水泳大会会場
13		校庭通路・外倉庫（一輪車）新設 愛鳥モデル推進校指定、新天神森太鼓開始
14	30 久保田弘毅	県教委指定「心をはぐくむ教育活動」実践発表会、給食開始 一輪車県大会 1 0 連覇
15		花壇コンクール入選 一輪車県大会 1 1 連覇 よい歯の表彰
16		一輪車県大会 1 2 連覇 よい歯の学校表彰入選 花壇コンクール入選
17	31 山本 政弘	町村合併により、栗原市立萩野第二小学校となる 一輪車県大会 1 3 連覇 よい歯の学校表彰
18		文部科学省「豊かな体験活動推進校」指定（～ 1 9 年度） 一輪車県大会 1 4 連覇 よい歯の学校表彰
19	32 佐藤 博	文部科学省「豊かな体験活動推進校」指定 栗原市防災無線設置
20		国土交通省よりボランティア・サポート・プログラムのスマイルサポーター認定
21	33 齋藤 圭子	特別支援学級新設（ほほえみ学級） 校内 LAN 工事完成 教育用コンピュータ導入 社団法人日本一輪車協会より一輪車 1 0 台寄贈
22		金成地区小中学校再編準備委員会設置 国土交通省より道路愛護等に関する表彰 東日本大震災発生（2 3 年 3 月 1 1 日）
23	34 栗原 淳一	第 4 7 回宮城県音楽教育研究大会で新天神森太鼓を発表
24		宮城県より道路愛護等の功績に関する表彰 校庭及び校舎周辺除染
25	35 菅原 至	学校再編により 2 6 年 3 月閉校

萩野第二小学校の移り変わり





### 学区の概要

萩野第二小学校の学区は、宮城県の最北端に位置し、北は岩手県一関市、西は旧栗駒町、東は一関市花泉町に接しており、生活・文化両面での交流が深い。学区は、末野（すえの）、藤渡戸（ふじわたど）、赤児（あかちご）、普賢堂（ふげんどう）の4行政区から成っており、東西約14km、南北約6kmに及ぶ。国道4号線が南北にはしり、これに東北自動車道、東北新幹線が併走している。自鏡山から流れ出る金流川（校歌では中江川）が東西に流れており、中山間地の稲作地帯である。末野地区には、末野新鹿野の一里塚や末野拾万坂を通り、一関へと通じる旧奥州街道がはしっていたが、特に拾万坂は、源義家が衣川柵の安部貞任を攻略した前九年の役に、拾万延の弓矢を作り勇躍して衣川に向かった所と伝えられている。



昭和4年以前は、末野地区と赤児地区にそれぞれ小学校があり、普賢堂地区には、赤児尋常小学校の分校として普賢堂支校が置かれていた。

昭和4年に二つの小学校が統合され、現在地に萩野第二尋常小学校として誕生し、昭和22年に萩野第二小学校と改称された。昭和25年に校舎・講堂が改築され、昭和41年に校旗・校歌が制定された。

平成7年3月、新校舎及び体育館の改築を機に120余年存続した普賢堂分校を統合し、平成7年4月より現在の校舎で萩野第二小学校として存続してきた。

### 学区略図



校章と校旗

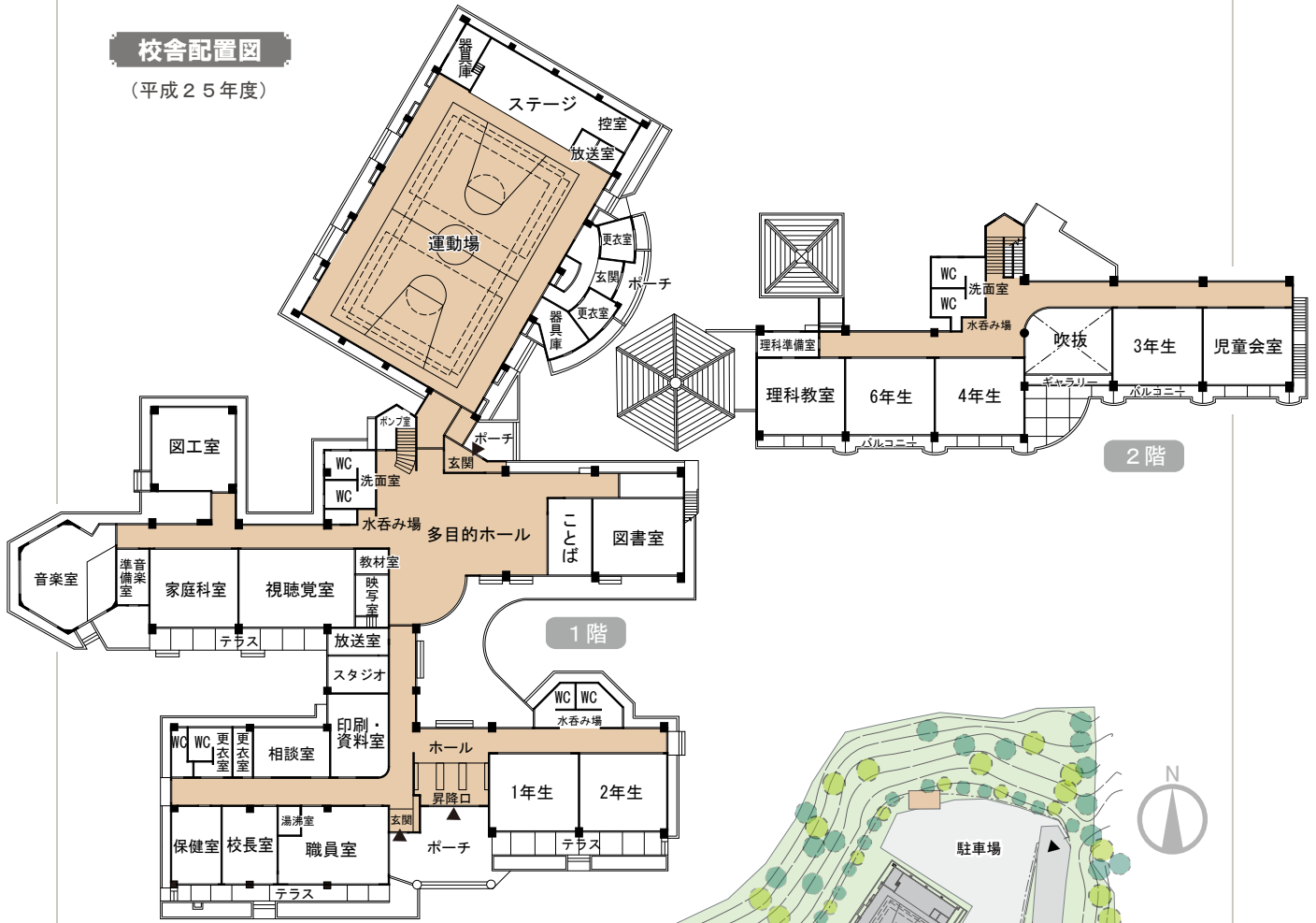




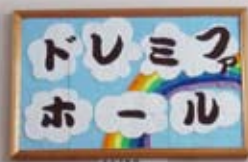
校舎のようす

校舎配置図

(平成25年度)



学校平面図



多目的ホール（ドレミファホール）





- 初代 三塚 正 校長 昭和4年度～昭和6年度
- 第2代 高橋 基資 校長 昭和7年度
- 第3代 佐藤豊次郎 校長 昭和8年度～昭和10年度
- 第4代 佐竹 隆 校長 昭和11年度～昭和12年度
- 第5代 日下 忠平 校長 昭和13年度～昭和15年
- 第6代 佐藤 覺彌 校長 昭和16年度～昭和18年度
- 第7代 山本 正 校長 昭和19年度～昭和20年度
- 第8代 千葉 長治 校長 昭和21年度
- 第9代 三浦 義勇 校長 昭和22年度～昭和26年度
- 第10代 野村鷹太郎 校長 昭和27年度
- 第11代 鎌田 三男 校長 昭和28年度～昭和29年度
- 第12代 佐藤 信吾 校長 昭和30年度～昭和32年度
- 第13代 佐藤 壽 校長 昭和33年度～昭和34年度
- 第14代 佐藤 静男 校長 昭和35年度～昭和37年度
- 第15代 齋藤 松男 校長 昭和38年度～昭和41年度
- 第16代 小山 松男 校長 昭和42年度～昭和44年度
- 第17代 佐藤 節郎 校長 昭和45年度～昭和46年度
- 第18代 菅原 康夫 校長 昭和47年度～昭和49年度
- 第19代 二階堂豊後 校長 昭和50年度～昭和52年度
- 第20代 菅原 傳 校長 昭和53年度～昭和56年度



旧校舎の記録



第21代	相澤 浩二	校長	昭和57年度～昭和58年度
第22代	相場 範二	校長	昭和59年度～昭和60年度
第23代	高橋 哲哉	校長	昭和61年度～昭和62年度
第24代	早坂 哲郎	校長	昭和63年度～平成元年度
第25代	伊東 悌二	校長	平成2年度～平成3年度
第26代	菅原 一朗	校長	平成4年度～平成5年度
第27代	加賀谷宏次	校長	平成6年度～平成8年度
第28代	大和 圭	校長	平成9年度～平成11年度
第29代	菅原 勝	校長	平成12年度～平成13年度
第30代	久保田弘毅	校長	平成14年度～平成16年度
第31代	山本 政弘	校長	平成17年度～平成18年度
第32代	佐藤 博	校長	平成19年度～平成20年度
第33代	齋藤 圭子	校長	平成21年度～平成22年度
第34代	栗原 淳一	校長	平成23年度～平成24年度
第35代	菅原 至	校長	平成25年度



旧校舎の記録



- |        |       |    |                   |
|--------|-------|----|-------------------|
| 初代     | 佐藤 茂  | 会長 | 昭和 22 年度～昭和 23 年度 |
| 第 2 代  | 小岩 三郎 | 会長 | 昭和 24 年度～昭和 26 年度 |
| 第 3 代  | 石川 寿雄 | 会長 | 昭和 27 年度～昭和 30 年度 |
| 第 4 代  | 佐藤 研  | 会長 | 昭和 31 年度～昭和 35 年度 |
| 第 5 代  | 阿部 幸雄 | 会長 | 昭和 36 年度～昭和 37 年度 |
| 第 6 代  | 千田 綾夫 | 会長 | 昭和 38 年度～昭和 39 年度 |
| 第 7 代  | 佐藤 時雄 | 会長 | 昭和 40 年度          |
| 第 8 代  | 小野寺忠三 | 会長 | 昭和 41 年度～昭和 42 年度 |
| 第 9 代  | 佐藤 宗一 | 会長 | 昭和 43 年度          |
| 第 10 代 | 佐藤 貞行 | 会長 | 昭和 44 年度～昭和 45 年度 |
| 第 11 代 | 佐藤 義夫 | 会長 | 昭和 46 年度          |
| 第 12 代 | 佐藤 昭平 | 会長 | 昭和 47 年度～昭和 48 年度 |
| 第 13 代 | 遠藤 明夫 | 会長 | 昭和 49 年度          |
| 第 14 代 | 熊谷 実  | 会長 | 昭和 50 年度～昭和 51 年度 |
| 第 15 代 | 千田 末永 | 会長 | 昭和 52 年度          |
| 第 16 代 | 小野寺 信 | 会長 | 昭和 53 年度          |
| 第 17 代 | 千田 時男 | 会長 | 昭和 54 年度～昭和 55 年度 |
| 第 18 代 | 小岩 誠二 | 会長 | 昭和 56 年度          |
| 第 19 代 | 石川 武司 | 会長 | 昭和 57 年度～昭和 58 年度 |
| 第 20 代 | 佐藤 信義 | 会長 | 昭和 59 年度～昭和 60 年度 |
| 第 21 代 | 菅原 英夫 | 会長 | 昭和 61 年度          |
| 第 22 代 | 小岩 孝一 | 会長 | 昭和 62 年度～昭和 63 年度 |
| 第 23 代 | 小野寺隆男 | 会長 | 平成 元年度            |
| 第 24 代 | 佐藤 傳  | 会長 | 平成 2 年度           |
| 第 25 代 | 佐藤 文夫 | 会長 | 平成 3 年度           |
| 第 26 代 | 阿部 一信 | 会長 | 平成 4 年度～平成 5 年度   |
| 第 27 代 | 熊谷 豊彦 | 会長 | 平成 6 年度           |
| 第 28 代 | 千田 幸志 | 会長 | 平成 7 年度           |
| 第 29 代 | 山家 賢藏 | 会長 | 平成 8 年度～平成 9 年度   |
| 第 30 代 | 石崎 弘  | 会長 | 平成 10 年度          |
| 第 31 代 | 千田 浩平 | 会長 | 平成 11 年度～平成 12 年度 |
| 第 32 代 | 二階堂克也 | 会長 | 平成 13 年度          |
| 第 33 代 | 遠藤 浩  | 会長 | 平成 14 年度          |



第34代	二階堂幸信	会長	平成15年度
第35代	吉川清志	会長	平成16年度～平成17年度
第36代	小岩正典	会長	平成18年度
第37代	熊谷等	会長	平成19年度～平成20年度
第38代	三浦みどり	会長	平成21年度～平成22年度
第39代	及川裕雅	会長	平成23年度～平成24年度
第40代	安藤岳人	会長	平成25年度

### 普賢堂分校歴代父母教師会会長

初代	佐藤進一郎	会長	昭和32年度～昭和36年度
第2代	小野寺俊夫	会長	昭和37年度～昭和39年度
第3代	佐藤正平	会長	昭和40年度～昭和41年度
第4代	小野寺源之助	会長	昭和42年度～昭和43年度
第5代	小野寺周平	会長	昭和44年度～昭和45年度
第6代	千田武	会長	昭和46年度～昭和47年度
第7代	千田司	会長	昭和48年度～昭和49年度
第8代	佐藤栄司	会長	昭和50年度
第9代	菅原孝男	会長	昭和51年度
第10代	佐藤次	会長	昭和52年度～昭和54年度
第11代	古山克朗	会長	昭和55年度
第12代	小野寺清一	会長	昭和56年度
第13代	千田隆治	会長	昭和57年度～昭和58年度
第14代	菅原勲	会長	昭和59年度～昭和60年度
第15代	千田徳治	会長	昭和61年度
第16代	菅原惣之進	会長	昭和62年度
第17代	佐藤逸郎	会長	昭和63年度
第18代	菅原清昭	会長	平成元年度
第19代	石川秀喜	会長	平成2年度
第20代	千田栄助	会長	平成3年度
第21代	小野寺正清	会長	平成4年度
第22代	佐藤俊治	会長	平成5年度
第23代	小野寺昭二	会長	平成6年度



普賢堂分校閉校式（平成6年度）

**萩野第二小学校の閉校に寄せて**

第27代校長 加賀谷宏次

私が萩野第二小学校にお世話になったのは、平成6年度～8年度の3年間です。新校舎が建って20年足らずで閉校になるなんて淋しい限りでいっぱいです。

思い出と言えば、三つ挙げられます。

第一は、校舎建築に関わる出来事です。全体の校舎の構想をどうするか。校庭の南側にある枝垂れ桜をどう残すか。高台の校庭は風当たりが強いと予想されるので、北側のネットをどうするか。音楽室の音響効果をどう建物に活かすか等、設計者・行政担当者とは何回も打ち合せをしたものです。

ほぼ設計が出来上がった頃、「天神森（藤渡戸館跡）」の遺蹟跡と言われてきたことから、「文化財が埋蔵されているんじゃないか。」との疑問が沸き、県の文化財保護課の職員が来て校庭を20m四方2箇所掘り返したこともあります。そんな経過があって今の校舎があるのです。（後に、PTAの積み立て金があったので、太鼓を買い、天神森太鼓と名付けました。）

第二は、普賢堂分校の閉校という事業があります。地域の方々が分担して閉校事業を見事に成し遂げたのです。閉校に当たって最も苦しかったのは、挨拶文です。時代の趨勢と言言葉で濁しましたが、「学校が失くなる。」＝地域のともしびが消えることを意味することを経験上知っていたからです。（岡岡小学校移転）

第三は、萩野二小学区の皆さんの温かいぬくもりです。私の義母の命日は、平成6年6月21日です。当日、私は人間ドッグで仙台の厚生病院にいました。夕方帰ってきたら、萩野二小の役員の人たちがテント張りをしていました。葬式に備えて準備に当たっていたのです。四月に転勤してきたばかりなのに、こんなにお世話してくださる萩野二小の人たちの温かさに感動しました。「人間のぬくもりは、出会った瞬間に感じるものだ。」と言われますが、この時ほど有り難さを感じたことはありません。義母の命日が来る度に思い出す出来事です。

学校はなくなっても、あの日の温もりは生涯忘れられません。



普賢堂分校卒業記念（平成6年度）

**萩野第二小学校でのあれこれ思うこと**

第28代校長 大和 圭

「瀟洒（しょうしゃ）というべきか、メルヘンチックというべきか、とても素敵な学校が建ったな。」と思いながら4号線を通っていました。そして、「あんな学校で働けたら…」とも思っていました。

それが図らずも、教員生活の最後を、しかも地元の学校で働けることになった時、大変感激したことを今でも鮮明に覚えています。

人懐こい児童の皆さんと、いろんなことに協力を惜しまないお父さん方とお母さん方、そして常に真剣に子どもたちと向き合う先生方に恵まれた3年間を過ごすことができました。

まず心がけたことは、当然のことながら子どもたち全員の名前を覚えることと、できるだけたくさん保護者の方々の名前とお顔を一致させることでした。

そのためには、できるだけ教室を訪問したり、休み時間には子どもたちとのふれ合いを多くしたり、名前呼びかけのように心がけたりしました。

また、参観日はもちろん、PTA役員会・地区の集会などには、できるだけ参加するようにいたしました。そこでは、いつも気安く声をかけていただいたり、時には一緒に杯を交わすこともありました。大変心強く思われました。

そして、力を入れたのは、普賢堂分校時代から伝統として素晴らしい成績を収めてきた「一輪車」の灯を消してはならないということと、新校舎落成の時から「天神森太鼓」を盛り立てていくことでした。

低学年の子どもたちに、1対1で親身になって指導する上級生の姿に、胸を熱くさせられたことが何度もありました。そして、夏休みのあの暑い日の大会で、子どもたちの必死になって挑戦する姿や保護者の方々の熱い応援の姿が忘れられません。

また、学芸会での「天神森太鼓」発表に向けての教え合う姿や、引継ぎ会の場面で、胸を熱くした



稲刈り

念として掲げていただきました。

しかし、まもなくこの萩野第二小学校も閉校となり、この校歌も歌われなくなるのかなと思うと、一抹の寂しさを禁じ得ません。が、新しい小・中一貫教育校として発展していくことに、大きな期待を抱いております。

ことが記憶に残っています。

その他には、農業地帯の学校でありながら、実際には、米（稲）の栽培過程を案外分からない児童が多いことを知り、JAの協力を得ながら、バケツでの稲の栽培に取り組んだことがありました。

退職した翌年からは、近くの保護者の方の田んぼをお借りしての農業体験に取り組んだそうですし、現在は校庭の一郭に田んぼを作ったの体験をされていると聞いています。

やがて退職の時を迎えることになりましたが、校舎内に「校歌」の額がないことに気付き、当時の金成町教育長佐藤吉郎先生の揮毫をいただき、退職記

## 萩野第二小学校の思い出

第29代校長 菅原 勝

平成12年度、13年度に奉職いたしました。校舎は新しく、まるでお伽の国のお城のイメージです。周りは田んぼで東側には森林があり、シイタケ栽培のほた木が点在、春にはカタクリの花が咲き誇っていました。小規模ですがその特色を生かした教育を学校・家庭・地域が一体となって児童の育成に力を注いでいました。

特色ある活動の思い出より

### ■一輪車競技の学校

入学して間もなく、上学年のコーチ宜しく「七転び八起き」の努力が実り、秋の校内一輪車大会では、記録更新に挑みました。また、県北の大会では、圧倒的な成績で連勝記録を伸ばしました。それが普賢堂分校以来の伝統と言うものなのかもしれません。

### ■打てば響く太鼓のように

萩二小には、「天神森太鼓」と言って普賢堂分校で興した太鼓の表現活動が伝統となっています。一曲のみであったので、二曲目を元萩二小の校長先生、高橋哲哉先生（当時伊豆沼ウェットランド交流館長）に教えていただく様にお願い致しました。大変お忙しい所、何度も足を運び教えていただき、ついに、秋の郡音楽祭には新曲の発表が出来ました。高橋哲哉先生、本当に有難うございました。哲哉先生の「魂」の曲がいつまでも伝統となって聴けるよう願うものです。

### ■郡・県ジュニア陸上競技大会出場

毎日、業間時間もリレーの練習に精を出した女子リレーチーム。利府の県競技場の「こけら落とし」に日本陸上競技大会が開催され、その前段に力走したことは、素晴らしいの一言です。選手には、一生の宝として残る事でしょう。

### ■秋の遠足と普賢堂地区老人会との交流

1・2年は3キロ、3年以上は7キロを歩き、元の普賢堂分校にて「芋煮会」と「天神森太鼓」の披露をし、子どもたちとお爺さんお婆さん方と大いに盛り上がった交流会。

それもこれも、職員の共通理解と家庭や地域の皆様の理解と協力があったからこそと感謝しています。

終わりに、金成には津久毛小、沢辺小、萩野第二小と6か年間お世話になりました。私事ですが、祖母の出身地が萩二小学区で、何か目に見えない糸で繋がっていると思うのです。閉校となる事は残念ですが、将来につながる教育を大いに願い前進する様お祈り申し上げます。



修学旅行（平成12年度）



**複式学級編制のなかで  
学年別授業をめざした思い出**

第30代校長 久保田 弘毅

私は2度萩野二小にお世話になりました。初めは平成8年度、9年度に教頭として勤務しました。新校舎や体育館、プールができたばかり、給食も始まるところで児童数は76人と少ないけれど希望にあふれる学校でした。

ところが平成14年度、再び二小に来てみると児童数は半減していました。校長として勤務した3年間の課題は、複式学級編制のなかでの学力維持でした。算数や国語は学年別に授業して少人数指導の効果をあげたいということで、先生方にはよその学校と違う無理をしていただきました。低学年の複式授業で手の空いた先生に、高学年の家庭科を担当していただくなどは序の口でした。フリーの教務主任の先生も学級を持ち、教頭先生まで教科の授業をするという体制です。職員室の全校時間割表の複雑さは、まるで中学校の時間割表のようでした。なかには残念なことに複式学級で学ばせるのはいやだと他校へ転校させられた子どももいました。そうしたなかで複式学級経営の先進校である大目小から講師を招いたり、栗原の他の小規模校の先生方を招き授業参観・複式指導法研究会も開いたりしました。その効果があったのか平成17年2月の「学力診断」で児童の学力が他の町内小学校より優れているという結果がでたときは、苦勞が報われたという感激がありました。

1年生はたった4人だけという時期があったように思います。4人でなかよく遊んでいるものの、同じ学年の子ども同士でドッジボールをさせたい、プール遊びをさせたいという思いから、鳥矢崎など小規模校の悩みを共有する学校と合同授業も試みました。

退職して9年が経ちます。現在はおそらく複式化が進み職員数が減少して当時のような学年別授業の工夫は出来なくなったのではと想像しています。校庭にミニ田んぼを作ってもち米を栽培し、祖父母参観に餅つきをしたり、1年生まで一輪車を乗りこなした志波姫の大会では毎年優勝したことは小さい学校ならではのよい思い出です。今度新しい小・中一貫教育校で、子どもたちが白萩のように、杉のようにすこやかに成長することを祈ります。

**母港**

第31代校長 山本 政弘

小中学校時代の同級会を、今年もまた、白石市の小原温泉で行いました。

飲みかつ歌い、夜遅くまで談笑し合う仲間たちからは、泥んこになって遊び回った小学生、ちょっと生意気な中学生の頃の顔がちらちら見え隠れします。

七ヶ宿町の私の母校は、学校統合等により校名が変わり、校舎も移転し、当時を偲ばせるものはほとんどありません。しかし、9年間の思い出は、50年を経た今も色褪せる事無く甦ってきます。

母校で培った友情は、今でも私たちを強い絆で結び、瞬時にあの当時の自分に戻してくれます。まさしく母校は私たちにとって心の『母港』、人生の幾多の航海のたびに、必ず錨を下ろしたくなる港なのだと思います。

萩野第二小学校は、私の三十有余年の教職生活の最後の港です。校庭を駆ける一輪車、廊下に響く歓声、天神森太鼓のたくましい音、学芸会や運動会。生き生きと活動する子どもたちの姿が、今でも鮮明に浮かんできます。何事にも真剣に取り組む子どもたちと、いつも温かい眼差しを学校に注いで頂いた保護者や地域の方々に囲まれ、楽しく心とむ2年間でした。

時勢とはいえ、その萩二小がついに閉校の時を迎えたこと、本当に残念でなりません。登米市で学校統合に携わったことのある教員として、子どもたちの元気な姿や明るい声が地域から消えるという寂しい思いは痛いほどわかります。萩二小の皆さん、たとえ母校はなくなっても、萩二小はこれからの人生の長い航海の折々に、必ず帰りたくなる『母港』です。

萩野の「萩」は、「絆」の姿に似ていると言われます。萩二小は、しなやかな「萩」の枝で結ばれた皆さんと、萩二小を母校とする多くの方々の心に母なる港として永遠にあり続けることでしょう。

歴史と伝統のある母校で、磨きあい築きあった数々の思い出を胸に、新しい学び舎でも存分に力を発揮してください。新生金成小中一貫教育校が、新しい自分との出会いの港になることを心から祈っております。



天神森太鼓（平成17年度）



### 忘れえぬ 萩野第二小学校

第32代校長 佐藤 博

萩野第二小学校に勤務した2年間、思い出すのは何といても『パステルカラーに包まれたメルヘンチックな校舎』。学校といえば校舎は長方形、そして色は灰色があたりまえ。でも萩野第二小学校は、「とんがり屋根」と「かまぼこ型の屋根」のおとぎの国の校舎であり、パステルカラーで包まれた素敵な校舎。地域の方々にしっかり見守られ、そして育てられていた子どもたち、まさに地域の中の学校であり、教育の原点ともいえる萩野第二小学校は、子どもたちにとっても、地域の方々にとっても、心の中でいつまでも活動を続けている故郷の学校ではないでしょうか。

私が思い出す子どもたちの姿は、授業中教室から聞こえる元気な声、毎日全校児童がいっしょに食べた給食、そして読書集会、業間に校庭を走ったマラソン、一輪車練習等、次から次へと思い出します。

さらに、個人的に初めての体験をしたことも忘れられません。国道から少しでも萩野第二小学校の校舎が見えるように行った西側フェンス周辺の草刈り。初めて操作した草刈り機ただけに、予想以上に手間取ってしまいました。また、軽トラックに鉄骨をつないで走り回った校庭の整地作業。終わってみるとやり残しがあったり、コースロープを止めていた釘を抜いてしまったりと意外と難しいものでした。整地作業終了後、必ず歩いて抜けた釘を拾ったのですが、拾い残した釘で校庭で活動する子どもたちが怪我をしてしまうのではないかと心配したものです。しかしなんといても忘れられないのは、1年生の算数の授業。中学校数学を長年担当してきた私にとって同じ教科ともいえる算数、教材研究して臨めば授業は進められるだろうと思ったのですが、小学1年生を飽きさせずに進められたのは最初の〇分間のみ。「起立」が通じず、「立ちましょう」からスタートした授業は、まるで宇宙人を相手にしているかのようでした。その他にもいろいろ思い出し、懐かしさがこみ上げます。

今年度で閉校。覚悟はしていましたが、「とうとうその時がきてしまったか」そんな思いです。

転勤後、そばを走る国道から萩野第二小学校の校舎を見るたびにいつも思うこと、それは、この小学校に勤務できたことへの「うれしさ」と「満足感」そして「感謝」です。

ありがとう！！ 萩野第二小学校 さようなら！！ 萩野第二小学校

### 強い絆の中での幸せな2年間

第33代校長 齋藤 圭子

初めて校長となつての赴任地が、萩野第二小学校と知らされ、さっそく休みの日に見にいきました。金成を過ぎ、カーブを曲がった時の驚きとうれしさは、今でも覚えています。

「素敵な学校！あれが萩野第二小学校なの！」

目の前で、コバルトグリーン屋根が光り、素敵な色合いのモダンな校舎が輝いていました。実際に赴任してみると、建物の素敵さだけでなく、そこには校舎と同じように素敵な子どもたちと先生方が待っていてくれました。初めての校長という緊張もすぐに解け、子どもたちとも、先生方ともすぐに仲良くなり、毎日がすごく充実した日々となりました。

女性校長ということで、少々戸惑ったような保護者や地域の方々とも、学校や地域の行事を通し、打ち解け合い、夜遅くまで行った地域パソコン教室等は、本当に楽しいひとときでした。

しかし、その頃は、小中一貫教育校へ向けて、地域や保護者の方々との話し合いを深め、その方向性をさぐっている時期でもありました。児童数減少という現実を目の前にし、学校統合は止むを得ない。しかし、地域の核になる学校の存在を失いたくないという人々の願いが痛いほど伝わり、校長としてどのように対処していけばいいのか悩むことも多くなりました。そして、地域との絆が深まるほど、その悩みが大きくなったように思います。最終的に一貫教育校への合意が得られたのは、保護者や地域の方々の、子どもたちへの思いが一つになったからこそ成しえたことだったと、今改めて思います。

こうして一貫教育校へ方向性が見え、安心して転勤できるかなと思った頃に起きたのが、東日本大震災でした。幸い学校も児童も被害はありませんでしたが、自分自身の1時間以上の通勤が、ガソリン不足のために苦しみました。また、卒業式や離任式は、皆さんの力を借りて何とか実施できました。

このように思い起こしてみると、最後まで大変な2年間だったはずなのに、不思議と心に浮かぶのは、本当に幸せな2年間だったなあという思いだけなのです。素敵な子どもたち、あたたかい保護者の皆さん、いつも支えてくれた地域の皆さん、その方たちとの触れ合いが、本当に素晴らしかったからだと思います。学校は閉校となりますが、萩野第二小学校の校長として過ごした、強い絆の中での幸せな2年間は、私の心の中に、いつまでも素晴らしい宝物として残ることと思います。



## 夢と感動の萩野第三小学校

## —萩野第三小学校閉校に寄せて—

第34代校長 栗原 淳一

私が萩野第二小学校を初めて知ったのは、今から15年以上も前だったと記憶しています。その日、一関市に向かって国道4号線を北上していた時、車窓にコバルトグリーン屋根と白壁が迫ってきました。それは、くっきりと晴れわたった秋空にとってもよく調和し、何とファンタジックな建物だろうと心踊らされたことを鮮明に覚えています。

まさか、その学校に退職前の2年間、お世話になろうとは夢にも思いませんでした。

平成23年4月赴任、全校児童38名。しかも1年生から6年生まで兄弟姉妹のように仲がよく、上級生は下級生の面倒をよく見、また下級生は、上級生の言うことをしっかり聞いて活動していました。それに、礼儀正しく、何事にも一生懸命に取り組んでいる姿を見るにつけ、今時、このような子どもたちがいるんだ、と感心させられたものでした。

普段の授業はもちろんのこと、運動会や学芸会、金成地区合同の修学旅行や交流会でも素晴らしい活躍をしてくれた子どもたちでした。また、全校で取り組んだ一輪車乗りへの挑戦、天神森・新天神森太鼓の発表、徒歩遠足、地区清掃活動、県音楽大会への参加、めあてをもつてのスキルタイムや体力づくりなどを通して、子どもたちの成長を日々感じる事が、私にとって一番喜ばしいことでした。

学校が閉校になりましても、これまで掲げてきた「明日に生きる児童の育成—かしこく、やさしく、すこやかに—」の教育目標の精神が、「新生金成小学校」に受け継がれますことを切に願っております。私も陰ながらエールを送りたいと思います。

これまで本校のためにご尽力されました地域の皆様、保護者の皆様、父母教師会長はじめ役員の皆様、学校関係者の皆様、教職員の皆様には、厚く感謝申し上げます。

平成26年3月、一つの歴史が終わり、そしてまた、新しい歴史が始まります。子どもたち一人一人が、自分のよさを発揮し、夢や希望をもち、進んで生活できることを期待しております。

青空高く 夢を抱く

よい子 明日の子 郷土の子

みんな希望に 胸ふくらませ

進めよ 萩野第二小

(校歌より抜粋)

萩野第二小学校が、いつまでも皆さんの心に生き続けていかれることを信じています。



徒歩遠足 (平成21年度)



授業の様子 (平成23年度)



志津川合宿 (平成22年度)



校長先生と一緒に (平成24年度)



## 46年間の思い出

昭和27年度～平成11年度 小野寺 寿

萩二小の教頭先生から、原稿依頼があり、何を書こうかなと思い思案したところ、勤めた時の思い出を書いてみようかなと思いました。

昭和27年3月末（中学校卒業）に父から、「姉が北海道の叔母のところに行くので、明日から萩二小に行くように」と言われて学校に行きました。仕事の内容がわからないので、当時の先生に言われた仕事を夢中になってやりました。楽しかった事、苦しかった事、悲しかった事など、たくさん思い出します。

校舎は2階立ての建物で、校庭は校舎の裏にあり、校庭と校舎の出入り口は校舎の2階と校庭との間に渡り廊下を作って、4年生5年生6年生の下駄箱を作って出入りしていました。体育館は校舎と体育館の間に渡り廊下を作って体育館に出入りしていました。昔、職員室前の廊下に鐘があり、授業の始まり、終わりに鳴らしていました。

今のように、牛乳がなかったので学校で作りました。粉ミルクと砂糖とマーガリンを入れて機械でよく混ぜ、湯を沸かした大きな鍋に入れて温め、各学級のポットに入れて食器といっしょにしておきますと、昼食時間に子どもたちが持って行きます。ある日水道のポンプが故障してしまい、道路の近くの井戸から水を天秤棒で担いで汲んだことがありました。一日に40～50回くらい水を汲みあげ、ポンプが直るまでの間、20日間位汲み上げました。給食用の水と、飲料用の水、後片付け用の水でした。ある日のこと、5年生6年生の男の子たちが、一生懸命水汲みを手伝ってくれたことがありました。とても嬉しかったです。今でも感謝しています。

冬になると子どもたちの弁当を温めることになり、職員室前の廊下で、木で作った箱に弁当を入れて、炭を七輪でおこして温めた時、いろんな匂いがしみて大変でした。また冬の時期には、バケツいっぱいになった砕いた亜炭を、だるまストーブで燃やしていました。後に石炭に変わり、一枚の新聞紙を丸めて紐でしばり、夕方ころ石油に30本くらい浸しておき、毎朝、学級ごとに3本持って行き、ストーブに石炭を入れそのうえにのせて火をつけ暖まりました。

46年間の思い出が次から次と浮かんできます。先生方、地域の皆様、父兄の皆様方にはいろいろと支えられて勤めることができました。本当にお世話になり有難う御座いました。

## 「おばちゃん」の応援歌

昭和49年度～平成16年度

平成12年度～平成22年度 千田 くは子

原稿依頼を受け、「どうして私に？」という思いもありましたが、同時にとても光栄なことでもあると思いました。萩野第二小学校の歴史に幕を閉じるこの時、私なりに思いを綴りたいと思います。

今の二小は、校舎としての歴史は18年弱と浅いですが、二小の歴史としては、昭和4年から実に85年もの長い間地域に根ざして沢山の児童や先生方、保護者の皆さんを見守ってきたと思います。この地域から学校がなくなるという意味では、140年余りの歴史が終わりを告げることになり、重さや尊さを感じます。

私自身も用務員の「おばちゃん」として、昭和50年から約34年間勤務し、そのほとんどを普賢堂分校と二小で過ごさせていただきました。何年、何十年経った今でも卒業生や保護者の皆さんからは「おばちゃん」と声をかけていただいて、気分はあの頃のままです。普賢堂分校勤務の時は、娘二人の保護者としても11年間、また二小勤務では、孫が小学校4年生になるまでお世話になりました。どちらの小学校も思い出深く、普賢堂分校が平成7年に、122年の歴史を閉じ、今度は二小の閉校と二度の閉校を経験することになり、万感胸に迫るものがあります。

少子化に伴う時代の流れと言えはそれまでですが、地域から子どもたちの声が消えてしまうということは、本来であれば異常なことだと思います。子どもたちは、地域の中で育ってきました。根気強く、優しく指導してくださる先生方や団結力とパワーあふれる保護者の皆様、そして心温かく人情味豊かな地域の方々全員で育てて来ました。だからこそ子どもたちの声が消え、都会並みに地域と子どもたちとの距離が遠いものになりつつあるのが、とても寂しく思えてしまいます。

そんな不安を吹き飛ばし、未来ある閉校にするには、これからが大切だと思います。児童の皆さん、保護者の皆さん、新しい小学校でも、受け継いだ二小の歴史と伝統と誇りを胸に、どうか次世代へしっかり引き継いでくださることを心から願ってやみません。

児童の皆さん、一日も早く新しい小学校に慣れ、新しい友達も沢山作り、どんどん世界を広げて、激動するこの社会の中で強く生き抜く力をつけてください。

心の底から応援しています。「フー！フー！フー！」今度は地域の「おばちゃん」として精一杯応援しています。



**思い出 ありがとう**

昭和61年度～平成2年度 千葉 ムツ子

四季折々の花、草、木の香、裏山からは小鳥のさえずり、環境豊かな萩野第二小学校で5年間お世話になりました。(本校3年、普賢堂分校2年)閉校にあたりなつかしい思い出でいっぱいです。

昭和63年度卒業生17名(平成元年3月卒業)と卒業記念として制作した木彫刻の校歌。1枚10cm四方の板約200枚。

2学期から作製に取りかかりました。子どもたちは休憩時も惜しんで彫刻刀で彫り続けました。時には手に傷を負う子もありましたが、だれひとりとして弱音を吐くこともなく真剣そのものでした。それが5ヶ月続きました。

年号が平成になった1月下旬やっと完成しました。2月中旬、厳寒の夜(午後6時から)保護者と子どもたちが梯子や脚立を持参して集まり、無事体育館に掲げることが出来ました。あの時の拍手、歓声、涙を流して喜び合った感動。自分達が強い信念でやり遂げたという誇りと安堵の顔は今でも忘れることはありません。この校歌も歌われなくなり一抹のさびしさを感じます。

全員が選手で頑張った球技大会、陸上大会、水泳大会などの各種大会。図工、書初め、作文などの各種コンクール。数々の入賞、入選、何事にも努力を惜しまず挑戦する姿は萩二小ならではの底力と喜んでおりました。また学校行事では地域特産のりんご狩り、各家庭で栽培した野菜で作った野外炊飯、水管理、除草などしていただいた米づくり体験等々。保護者のみならず率先してご支援ご協力くださった地域の皆様があったからこそと感謝いたしております。私にとっては、萩野第二小学校は文章では書ききれないほどの思い出でいっぱいです。

今後は、学校は閉校しますがさびしい反面、金成小中一貫教育校として多くの面で活躍の場が広がると思います。「学べよ萩野第二小」、「伸びろよ萩野第二小」、「進めよ萩野第二小」の願いと精神を忘れずに萩二小魂で頑張ってもらいたいと思っています。

国道4号線を通るたび、あの小高い丘から校歌が聞こえてくる気がして、なつかしさがこみ上げてきます。萩野第二小学校、沢山の思い出ありがとう、さようなら。

最後になりましたが、地域の皆様の益々のご発展をお祈りいたします。

**目を閉じると…**

平成3年度～平成8年度 千葉 博美

目を閉じると思い出す、一つの風景があります。小さな木造校舎の上に真っ青な空が広がり、校庭にはたくさんの鯉のぼりがはたはたと気持ち良さそうに泳いでいます。そして、その下を一輪車に乗った子どもたちが楽しそうに遊んでいるのです。私が20数年前に普賢堂分校に赴任したとき、子どもたちのほとんど全員が一輪車に乗れることに驚いたものでした。上級生が1年生の手を取り、優しく声を掛けて教えている姿がとてもほほえましく見えました。地域の方々が集まっての餅つき会や演芸会、くに子おばちゃんがつってくれたカレーライスなど思い出すと心がほっこり温かくなります。分校で3年間を過ごした後、本校萩野第二小学校の6年生担任になりました。ちょうどその年は木造校舎最後の年で、校庭の向こう側では新しい校舎の建築が進んでいました。春、校門から昇降口までの坂道は桜並木が満開で、教室の中にまで花びらが舞い込んできました。この風景を忘れないようにと6年生9人で写生をし、大切な1年間を最上級生として頑張っていこうという思いを深めました。

新しい校舎ができると、机やイス、備品などを移す作業がありました。特別教室の物を段ボールに詰める時は、面白い物や不思議な物が奥の方から次々に出てきて盛り上がり、なかなか仕事が進まなくなりました。荷物運びでは地域の方々が大勢参加して下さり、大小様々な荷物を持って旧校舎と新校舎の間を何度も何度も往復しました。緑色の屋根の新しい校舎にわくわくしたり、古い木造校舎とのお別れに寂しい思いがよぎったりと心が揺れた時期でもありました。木造校舎が取り壊される日、校舎を見つめる子おばちゃんの淋しそうな横顔が今でも忘れられません。

体育館もプールも何もかも新しくなりました。子どもたちから名前を募集した「ドレミファホール」で和太鼓の練習をしたり、ブルーシートを敷いて海に浮かぶ夢の島をつくる図工の授業をしたりしました。いつまでもきれいなままだと、みんな丁寧に掃除をしていました。

分校に3年、本校の木造校舎に1年、新しい校舎には2年間お世話になりました。萩野第二小学校での6年間いつも感じていたのは、子どもたち同士の兄弟のような優しいつながりです。そして保護者の方々をはじめ地域の方々が子どもたちや学校を力強く支えてくださっていることでした。

20年の月日が流れ、「先生になったよ。」「結婚して赤ちゃんが生まれたよ。」など嬉しい知らせがたくさん聞こえてきます。



## 宝物のいっぱい詰まった

### 萩野第二小学校の思い出

平成14年度～平成20年度 菅原 眞知子

私が萩野第二小学校にお世話になったのは、平成14～20年までの7年間でした。国道4号線から見える素敵な学校に念願叶って勤務できた事は、私の宝です。思い起こせば学校給食が夏休みの後から始まり、1・2年生は教室、3年生以上はホールで揃って食べました。好き嫌いする友だちもなく、残食もなく、理想的な楽しい給食の始まりでした。

一輪車大会では、何年もの間連続優勝を果たし、すごい！すごい！といつも思っていました。乗り物酔いをする人がいないのも、一輪車に乗れるみんなだからと私は確信しています。

この他にも、むし歯予防教室の時に、かとう歯科の先生と、スタッフのみなさんから、毎回工夫して分かりやすく指導して頂いた事や、中学生のお兄さん・お姉さんで結成した歯磨き隊の劇など、とても勉強になりましたね。歯みがき隊のお兄さん・お姉さんたちが、各学年に入って指導していた時、皆さんが、目を輝かしながら真剣に聞いていた姿が、とても印象的でした。こんなこともありました。それは、ほねほね銀行を開設して、「こつこつ貯金通帳」に、健康に良い取り組みを貯金していきました。「うんどう貯金」・「たべもの貯金」・「ボーナス貯金」の他、健康に悪い生活をする「マイナス貯金」で、折角貯まった貯金も減っていき、残念な思いをしました。各貯金の解説をすると、「うんどう貯金」は、運動を15分、掃除・手伝いを15分、歯磨きを3分以上する毎に「1こつ」貯金できました。「たべもの貯金」は、牛乳1本を飲む、魚を食べたら「1こつ」など、バランス良く食べられるように頑張りました。そして「ボーナス貯金」は、自分の立てた月のめあてを守れた時には、ボーナス「10こつ」とドーンと増えました。でも「マイナス貯金」は、10時過ぎに寝たら「5こつ」減り、姿勢が悪い・歯を磨かないなど、健康的でないことをすると「5こつ」ずつマイナスされていきました。

離任式の日、壇上から一人ひとりの顔を見ながら健康観察をした時、目をキラキラさせ、大きい声で「はい元気です」、と返事をしてくれた声と、その時の顔が今でも思い出されます。とても素直で良いところをいっぱい持っているみなさんと、一緒に過ごした時間は私の一生の宝です。

輝かしい未来を持っているみなさん、萩野第二小学校での思い出を励みと糧にして大きく羽ばたいて下さい。どこかで会った時には、声をかけて下さい。楽しみにしています。

最後に、萩野第二小学校での思い出をありがとうございます。

## 「明日に生きる子ども！

### みんな大好き」感動をありがとう

平成15年度～平成22年度 後藤 忠義

8年間お世話になりました。萩野第二小学校に着任したときは、「明日に生きる子どもの育成」という教育目標でした。

「学力」・・・指導体制と教育課程の工夫に取り組みました。その中でもうれしかったのは、市内小学校で始めて実施した漢字検定試験で全員が挑戦して合格したことです。中学校の漢字を覚えて、小学校を卒業することをめざす子が多くいました。

「体力」・・・一輪車で世界をめざすことです。前後左右のバランスを車輪1点で支え、ペダルの加減で自由自在に動きます。もう体は、一輪車と一体です。「無重力感が体に伝わってくる感じがとてもいいのです。」という乗れる子の談話。毎年、志波姫地区で行われる県大会では、14回連続優勝を維持するなど一輪車に自信を持って取り組みました。(15回以降中止)

「校庭田んぼで米づくり」・・・苗が育つ様子を知ったり、関心を深めたりするために、校庭の一角に田んぼをつくりました。昔ながらの作業をしながら、毎日変わる田んぼの様子を観察しました。この田んぼでできたお米は、萩っ子まつりで、地域のみなさんと一緒に食べます。「萩二小の子どもたちが作った米は、おいしいなあ。」と言っていただきました。人間は、自然に生かされていることが実感できる学習の一つでした。

また、「天神森太鼓」では、子どもたちが大人になった時この伝統が生き続けてふるさとの良さを感じ取ってほしいです。自分が受け持った学級での思い出は、6年男子6名のクラスで400mリレーで優勝し、県大会に出場したことです。そして、学芸会です。長い台詞を完全に覚えた演技の一生懸命さに地域・家族の皆さんが笑い、涙を流してくれました。脇役はいません。一人一人が主役だし、プロ級の係り活動も主役でした。

「ありがとう。感動いっぱいの萩野第二小学校の卒業生の皆さん。そして、在校生の皆さん。」



たてわり班（平成21年度）



**萩野第三小学校の閉校に寄せて**

栗原市議会議員 小岩 孝一

萩野第二小学校は、明治6年の創立より140年以上の長きにわたり、子弟の教育と地域社会の発展に貢献し、輝かしい歴史と伝統を築いてこられました。

これまでの長い歴史の中で、ご尽力いただきました教職員の皆様、PTAの皆様、地域の皆様に対しまして敬意を表すとともに、感謝を申し上げる次第であります。

本小学校は、豊かな自然環境や教育環境に恵まれ、これまでに数多くの子どもたちがこの校舎で学び、学業、スポーツ、文化活動に充実した日々を過ごされ、巣立っていかれました。そして、たくさんの思い出を胸に全国へと羽ばたき、各方面で大活躍されておられますことは、既に皆様ご承知の通りであります。



旧校舎の記録

新たな時代を担う子どもたちの未来を考えたとき、学校再編は、子どもたちの幸福を祈念したところでの英断であり、ご理解いただきました関係皆様に対しまして、改めて敬意を表する次第であります。

学校という地域の文化拠点がなくなってしまうことは、寂しいことではありますが、これまでの輝かしい歴史や培われた萩二小の伝統は絶えることなく、いつまでも受け継がれていくものと確信しております。

私は校歌の中の「天神森の杉のよう青空高く夢を抱く」と言う歌詞が大好きです。今は、天神森も杉の木も無くなってしまいましたが、これからも二小学区の子どもたちには、この校歌のようにたくましく真っ直ぐに夢を抱いて成長してもらいたいと願うところです。

新年度より、小中一貫教育校という新たな取り組みに向かって、夢と希望をもち、前向きに進んでいく子どもたちを心から応援し、万全の体制で支えていきたいと思っております。そして、これまで先輩方が築いてこられた良き校風、伝統を新しい学校へ受け継いでいっていただきたいと思っております。

最後になりますが、長年にわたり萩野第二小学校を支えていただいた関係皆様のご尽力に重ねて御礼申し上げますとともに、新たに生まれ変わる金成小中学校が他地区に誇れる学校となるようご祈念申し上げ、閉校にあたっての挨拶といたします。

**萩野第三小学校の閉校に想う**

栗原市議会議員 三浦 善浩

とうとう、この時がやって来ました。たくさんの方々に惜しまれながら、その歴史に幕を降ろします。141年間という長い間、この地域の要として教育はもちろんのこと、私たち地域全体を育みながら、共に歩んできた学校がなくなることは、とても残念でなりません。私自身も、6年間通わせていただき大変お世話になりました。ほんとうに、ありがとうございました。

思い出は沢山ありますが、いま目を閉じて浮かんでくるのは、当時の校舎や恩師の先生方、同級生の仲間たちと楽しく過ごした日々のことです。泣いたり笑ったり、ケンカしたり仲直りしたりと、今にして思えば全てが勉強であり学びの場でした。時が流れて、自分の子どもが通学するようになり、今度は親として、再びお世話になりました。校舎は新しく立派に建て替わっていましたが、自分が通っていた当時から変わっていない校歌を聴いた時、とても懐かしく感じて思わず口ずさんだことが忘れられません。

閉校が「世相の変化」と一言で言うほど簡単なことではありませんが、閉校に合わせて一方では、新しいスタートが始まります。金成小中一貫教育校が開校となり、私たち「萩野第二小学校スピリッツ」のバトンは引き継がれ、そして金成の歴史に新たな1ページが加わります。そのことを思うと、期待も膨らみ感慨無量であります。現代の社会は、激動の時代とも言われておりますが、学校が変わっても萩野第二小学校の校歌にある「たくましい」子に育ち、そして「天神森の杉のよう」に真っ直ぐに「自分の夢」に向かって進んでほしいと思っております。子どもたちが成長する姿を楽しみに見守りながら、支えていけるように努力して参りたいと思っております。

最後になりましたが、学校教職員の皆様のご協力、そして閉校記念事業実行委員会の皆様のご尽力に敬意を表し、心より感謝と御礼を申し上げます。



### 区民のシンボル萩二小

天神森っ子守り隊隊長 小野寺 昭

私は、昭和25年に卒業しました。児童数は、31名ぐらいでした。木造2階建てで、ガラス戸が多いので強風の時は校舎がゆれ、ガラス戸の音がガタガタしていたのを覚えています。それに比べると、今の校舎はメルヘン的で近代風な立派な校舎です。現在の校舎は年数はたっておりませんが、萩野第二小学校としては開校85年の長い年月の歴史を刻んでおります。その学校が、平成26年3月をもって閉校になるということは、とても惜しまれるのと同時に寂しさを感じます。この萩野第二小学校を卒業した児童数は、2300人を越えたように記憶しています。

私が萩野第二小学校と強く関わり始めたのは、平成18年4月に天神森っ子守り隊を組織してからでした。当時は、学校や通学路における事件・事故が多発していました。そこで、児童の健全育成と登下校時における安全及び地域の防犯活動に寄与することを目的に天神森っ子守り隊を組織しました。防犯を目的とした不審者想定避難訓練を始め、地域清掃活動等における安全確保、そして日々の農作業をしながらの見守り、違反広告物の除去作業等、隊員はもとより事業所等協力者、地域の皆さんにも多くの御協力をいただけてきました。また、平成22年3月には、青色回転灯を装備しての自主防犯パトロールができることを認められ、さらに活動は充実してきました。今日まで、地域での事件・事故が起きていないのは、皆さんのお陰であり、関係者の皆様に感謝申し上げます。

今年度で萩野第二小学校は最後の年ということで、先生方、児童の皆さんもいろいろ工夫してがんばっていただきました。学校としては小規模校ですが、私には大きな成果を成し遂げた学校だと思います。

### 閉校に寄せて

萩二小新校舎落成記念事業実行委員長 佐藤 傳

今より遡ること18年、学区4地区が1つにまとまり、新校舎が建設され、萩野第二小の末永い学舎としてのますますの発展を望み、卒業生各位の皆様が大変ご協力戴き落成事業を行いましたのを思い出します。その校舎が児童数の減少に起因する時代の波の中、小中一貫教育校になる為に、不要となり且つ又、明治より続いた萩野第二小としての歴史も閉じることは、小学校は地域の文化の拠点であり、心のよりどころでもあり、こんなに早くこのような状況になるとは、当時には思いもよらないことでありました。まさに残念無念の極みであります。

親となりPTA活動に朝早く校庭の崖の草刈り作業や、施設の充実のためにと廃品回収や、子どもたちの体験学習のための稲づくりやら、先生方との懇親にと歓送迎会やら、ビニールバレー大会など、その一つ一つがオラ方の学校だからとの自負心が原動力だった気がします。そのような思い入れのためか新しい校舎が必要との運動が展開され、まさに親達や地域の思いが、一つにまとまる事が一番大事なことと、先生方の協力を頂きながら何度も皆で会議を繰り返し、話が進み、まとまる事が出来た経過などが、昨日のように思い出されます。なんとか思いが叶い、新校舎ができていまだ20年も満たしていないのに、いや…「10年ひと昔」もう…ふた昔と考えることにします。

さて私の小学校への思い出は、2階建ての木造校舎で窓から見下ろす中江川、何とも見晴らしの良い高台に気分が高揚したのを思い出します。校舎の2階から校庭に出る廊下、桜の木で囲まれた校庭そして校庭の西側に立つ講堂、小さい体育館でしたがその玄関の脇に立つ二宮尊徳の像、その傍で遊んだ数々の思い出の一つ一つに、楽しかった小学校時代。そして各先生方からチョちゃんまで、暗くなってまでも何かとご指導いただいたことが、今の自分になったと感謝しております。

今閉校となる萩野第二小学校の幾多の思い出が走馬灯のごとく駆け巡り、(人生50年ひとたびこの世に生受けて滅せぬ者のあるべき哉)敦盛の一節が心に響きます。新しい時代に向かう幕が明けて、一つの姿が消えてゆくのです。

有難うわが郷土の誇り二小、そしてご苦労さん。



落成記念式典（平成6年度）



**萩野第二小学校の閉校にあたって**

第39代父母教師会会長 及川 裕雅

私が萩野第二小学校に入学したのは、昭和51年の春のことです。当時校舎は、現在の敷地の南側にある2階建の木造であり、西側に体育館がありました。その面影がある写真が現在の校長室前の廊下に飾ってあります。校舎の周りには、桜の木が植えられておりました。

そして、同級生は、全学年で最も多く、転入、転出もありましたが多い時で23名位になったと思います。全校児童数は本校、分校合わせ90名位だったと思います。

学校生活の思い出としては、当時は上級生の男子が少なく、4年生位から放課後は先生方の指導のもと野球大会、水泳大会、陸上大会の練習がありました。

今では、栗原全体の大会という陸上大会しか実施しておりませんが、当時は金成地区で上位になるとそれぞれの大会で栗原郡大会へ出場することができました。

私が出場できたのは5年の時に築館小学校、6年の時に鶯沢小学校での水泳大会でした。5年の時には萩野第二小学校はメドレーリレーだけの出場でしたが、6年では、各種目とメドレーリレー、リレー参加の男子4名と背泳ぎの女子1名でした。結果は4種目の優勝と1種目の入賞でした。男子総合で築館小学校に続いての2位、総合でも5位だったと記憶しております。

その閉会式で、5名しか参加していない小さな学校でも努力すれば結果が付いてくるといった言葉を頂いた様に記憶しております。また、その指導に当たった当時の先生のご指導も熱心だったというのも、まぎれもなく覚えております。夏休みには小さい学校なので中学生も一緒にプールに入り、先輩方と競争したり教えてもらったりしました。小さいなら小さいなりにいろいろありました。

また、修学旅行は金成町の全ての小学校が合同で会津方面に行きました。幼稚園の時1年間同じ園で過ごしたので、何人かは面影があるなあと思ったりしました。その約10カ月後に、同じ中学校に通うという流れで過ごしてきたわけです。

今回、皆様方の合意ということで、再編され小中一貫教育校という運びになるわけですが、自分が学んだ学校がなくなるということは、寂しい限りです。後は、自分が出たどの学校が残っていくかと指を数えるだけです。

**思い出の萩三小**

民生委員児童委員 菅原 英夫

60年前、昭和28年4月、私と妹は祖母に手を引かれ、萩野第二小学校に入学した。妹とは一卵性双生児で生まれた。なぜ父母が入学式に参列できなかったのかいまだ、わからない。校門の前で祖母の両脇に手をつないで写真を撮ったのを、覚えている。入学した児童は33名だった。背の低い私は6年間に渡り、「前做い」をした事はなく整列時は常に1番前で過ごした。運動会の徒競走では、いつも最後を飾った。ただし障害物では3位以上をマークした。妹は私より学習面や体育面で常に優秀だった事から、いつも比較されたが、父母は何も言わず、私は常に魚釣りや野山を中心に活躍する事が出来た。

4年生の通信簿に「涙もろい」と書かれた事がある。涙もろいのは悪い事なのか、人前で涙を流す事はだめなのか、涙を流さないよう直す事に努力したが駄目だった。

冬が近づく11月、学校の裏山へ「まき拾い」があった。枯れ木や杉の葉を冬期間において燃料に使うための学校行事である。授業抜きでの全校児童による行事だった。ダルマストーブと言われる鋳物で造ったストーブで、たまには目をこすりながらの授業でもあった。ストーブの回りには弁当をつるし温かい弁当を食べるのは良いが、授業中に沢庵の臭いが教室に充満した。切手収集に興味を持ったのも小学校時代であった。懐かしい思い出である。

昭和42年頃と思われるが、学校の先生による宿直制度が廃止される事になり、学校の代行宿直をやってみないか、1晩750円になるといわれ、代行宿直を1年半位やった事がある。当分は毎日1人で勤めたが、その後もう1人が加わり、2人で交替でやる事になった。夕方の5時から、次の日の8時までだが用務員さんに「農作業が終ってからでいいよ」と言われ、又いつも用務員さんが、ふとんを敷いてくれ、快適な宿直だった。

男の先生が「悪いね」と言って、1升びんを枕元においていくこともあった。

又、宿直のおかげで、作法室や職員室は青年団の集会や行事に、自由に使う事ができ、地域の活性化にも役立てる事が出来た宿直代行ではなかったかと思っている。

閉校となり地域の大きな支えであった第二小、思い出はいっぱいである。今までに赴任なされた多くの先生方ありがとうございました。





**さらば萩野第三小  
児童に感謝と別れを告げて**

天神森太鼓指導者 早坂 定光

「その名もおれ白萩の」「窓べに光る中江川」「天神森の杉のよう」と歌われた自然豊かな丘陵地で、子どもたちに多くの学びを与えてきた萩野第二小学校が閉校し新たに新生、小中一貫教育校として開校されます。萩野第二小学校は、地域住民の方々の学校教育に対するご理解、ご協力のもと、地域の温かな目に守られ、健全な児童育成の伝統を築き上げてこられました。地域の特色と豊かな自然に恵まれ、愛着を持ち、受け継がれてきた校風と校舎に感謝と別れを告げることになります。

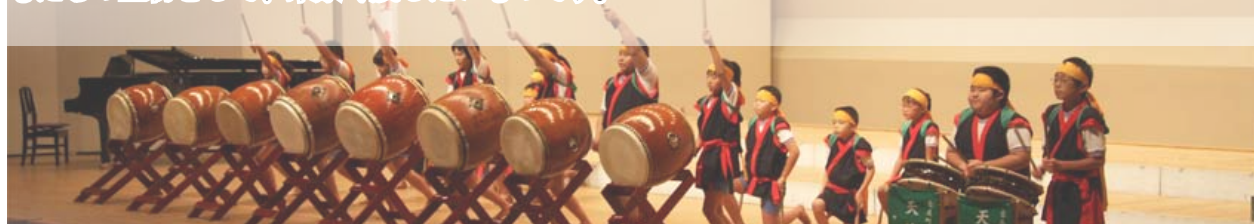
天神森太鼓・新天神森太鼓は、第23代校長高橋哲哉先生が、郷土の伝統芸能として、地域をテーマにして作り出された創作太鼓です。

歴代全児童のこの素晴らしい曲の太鼓に打ち込む熱意は、並大抵なものではありません。太鼓には音符も楽譜もなく耳で聞いて練習に練習を重ねて体で覚え、音色を上学年から、下学年へと引継ぎ、保存してきました。

今でも忘れはしない昨年10月の栗原市音楽祭で、子どもたちは、出番前リハーサル室で、自分たちの出演順番の直前まで落ちつかず緊張感が私にもはっきりと伝わってきました。

子どもたちのプレッシャーを取り除くのにどうしたらよいか心配しているうちに、「太鼓の先生が側についているから、しっかり。」と気持ちを切り替えさせ、一人一人に握手して送り出してやりました。そして、見事に元気のある、「天神森・新天神森太鼓」を演奏してくれました。

構え方、太鼓のバチさばき、目線、声の出し方など、自信を持って演奏され、練習の成果を本番で見事に出し切ってくれました。このような太鼓は、萩野第二小の大きな宝物だと思います。学校が地域からなくなっても、ふるさとの良さは、永遠にあり、語り継がれていくことでしょう。ここで太鼓の歴史が終るのではなく、ここまで温かく見守り支えていただきました天神森太鼓を、地域や、子どもたちの宝物として、末永く残したいものです。



**素晴らしき萩野第二小学校**

有壁駐在所長 関傳 賢

私は萩野第二小学校が閉校になると知り、本当に残念に思いました。

転勤の多い私は、県内のいろんな地域の小学校をみてきましたが、萩野第二小学校の児童は、県内の児童の中でも大変優秀でまとまりのある児童だと思います。それは、上級生が下級生をしっかりと面倒をみている学校の歴史があるからなのではと思っています。

運動会などで見せる児童全員での一輪車競技、見ていて感動します。上手なのはもちろんですが、何事にも一生懸命に取り組んでいる姿が目に見えるようです。歴史ある学校で新たな取り組みをし、実績を残していくのは今まで伝統を作り卒業していった地域の皆さんの誇りであり、思い出でしょう。児童の減少により歴史ある学校が少しずつ減っていくのは本当に残念でなりません。

萩野第二小学校では、地域の道路清掃活動をしていましたが、いろんな清掃活動に参加することで、物を大切にする心が育つとのこと。清掃活動を通じ「謙虚な人になれる、気づく人になれる、感動の心を育む、感謝の心が芽生える、心を磨く」ことができると聞きます。萩野第二小学校の児童は、それを証明している学校であり、地域と密着し、地域に愛された学校であったと思います。

以前に、卒業生に送る言葉として「努力の価値」という文面で投稿したことがあります。その内容は、「人生の幸せの一つは、積み上げた努力が報われること。」であり、「報われるかどうかは、運もあるが、普段の努力の積み重ねに大きく左右される。目標をもって毎日努力していきましょう。」というものでした。

学校が閉校し、新たな金成地区の小中一貫教育校としてスタートをきり、これから伝統を作っていく皆さんは、今後も萩野第二小学校のいいところを取り入れた素晴らしい学校となるよう目標を持って努力を積み重ね、充実した学校生活を送れるよう祈っております。



交通安全教室（平成25年度）



## 私の思い



普賢堂分校閉校式（平成6年度）

昭和28年度卒業 小野寺 昭三

普賢堂分校の閉校から早いもので18年、時代の流れとはいえ、また子どもたちに心の負担をかける事になるのかなあと感じてなりません。

栗原市においても、小中一貫教育校、つまり9年生の教育校、数少ない試みを実行する市町村となる訳ですが、決して子どもたちの負担にならない事を願います。

私も分校時代には、先生、地区民、父母会の連携のもとに充実した日々を送らせていただいた一人なのです。

今マスコミなどは、子ども同士、父兄間、

父母と先生など陰湿ないじめがテレビのスイッチを入れるたび、報じられています。この話題を耳にするたび、都会だけの話ではないと人事ながら心配でなりません。喧嘩をするとふしぎと仲良くなり長い友達となる時代を過ごしてきた私には、なかなか理解できないでいる今日この頃です。

分校統合は吸収統合の意味合いが濃く地区民の、わだかまりを残した様な気がありまして、今だに悔いが残っております。

今回は私の時と違い、真新しい出発だと思えます。5地区民の皆様、小中一貫教育校にして良かったと思われる学校を目指していただきたいと思えます。地区の協力も必要だと思えますが、父母と先生方の努力が試される事と思えますので、子どもたちの心にゆとりが持てる日々を過ごせる様指導をお願いしたいと思います。

将来子どもたちがこの学校を卒業した事が誇りに出来る様、子どもの個性を伸ばし先生方の個性も十分発揮していただく事をお願いいたしまして、私の思いといたします。

## 忘れられない萩三小

昭和30年度卒業 鈴木 祥司

私は、萩野第二小学校を昭和31年3月に卒業しました。在学6年間で耳の中に水が入った時のように片足を上げてトントンしながら思い出を引き出して書いてみます。

昭和25年新校舎落成と共に45名が入学し、落成式には紅白の餅を貰い、帰ってから家族で味わいました。入学式の記念写真を見ると長靴を履いている子、モンペ姿の子、セーラー服を着たり短靴を履いていたり、さまざまな服装で入学式に臨んでいたようです。私はいとこから貰ったお下がりの学生服でした。1年生から3年生までの先生達は必ずと言っていいほど竹の鞭を持って一段高い教壇に立って睨み付けるようにして教えていた事を思い出します。

ここで校舎の概要と見取り図を引き出します。旧校舎は現在の南側に建設され、見晴らしが良く、教科書を見ないで4号線を走る自動車ばかり見ていた気がします。2階の一部分から校庭に入出入りする事ができ、4・5・6年生はここを使って校舎に入出入りをしました。1階には1・2・3年生教室と職員室、校長室、便所、2階には図書室、作法室がありました。作法室は女子児童の家庭の勉強の場です。一番の思い出は放課後の掃除当番の時でした。床は板張りで、そこにバケツをひっくり返して水をこぼし、下の職員室の天井からしたたる水が運悪く担任の先生の机の上に落ち、大声を出して階段を昇ってきた先生の顔は、息切れもしているせいかなぜか青ざめていたのを思い出します。学校での昼休みの時間には高学年はバツ打ち、釘刺し、メノタマはじき等の遊びが主でした。現在校舎が建っている所は畑と山林の小高い丘状になって、そこには土地の所有者が草葺き屋根の修理に使う茅を刈り、立て掛けて干場にする場所でした。

その茅を寄せ集めて砦を築き二手に別れて陣取りやチャンバラゴッコに夢中になり暗くなるまで放課後を過ごしました。家に帰ってからは大目玉を貰うありさまは今の子どもたちにはわからないと思います。近所の方には一度も大目玉を貰った事はなく気持ちの広い方だな、と思いながら毎日遊び歩いていました。

普賢堂分校と統合し、旧校舎は取り壊され、校庭は広くなり昔の面影はなくなりましたが、モダンな萩野第二小学校に建て替えられ、以前と変わりなく地域の寄りどころとなりました。4号線から見た校舎は自然の中に溶けこんで、子どもたちの将来に夢と希望を与えてくれる感じがするこの地域に、萩野第二小学校が無くなるということは非常に寂しい気持ちでいっぱいです。



## 大自然と遊びの天才たち

昭和36年度卒業 阿部 一信

川端康成の小説の中に「長いトンネルを抜けると雪国であった。」という一説がありますが、当時の二小は桜の時期、国道は桜の大木の並木が続き、脇の小高い丘に満開の桜森に包まれ建っていた木造校舎。長い曲がりくねった坂道を抜けて目の前に広がるパノラマ。その空間は、まさにジブリの世界の様であり、国道を歩きかう人々は、どんなにか心穏だ事だろうと思います。

2階建ての校舎は南面の傾斜地に、校庭はその後ろ。校庭の西側に栗駒おろしを防ぐように体育館（当時は講堂と言っていた）。その隣にはトイレもあり、限られた土地を最大限に活かした先人たちの知恵は大したものだと感心させられます。

校庭を囲む桜の大木は、春には花びらが乱舞し、秋には枯葉の絨毯が一面を覆っていました。狭いながらも1年生から6年生まで、四季折々の中で思いきり走り回り遊びました。

野球やドッジボールはもちろん、なかでも忘れられない遊びがあります。校庭の後ろの一段低くなった3、40メートル幅の麦や大豆の畑を挟んで、天神森と向き合う山は絶好の遊び場でした。その山で二手に分かれて繰り広げられる「戦争ごっこ」腰には竹の刀、鉄砲はゴムと木の枝で作った手製のパチンコ、銃弾は各自家から持ち出した大豆。大声を出し、夢中になって戦いました。4年生以上は校庭から続きの昇降口になっていたのも、私たちは、校庭の垣根をくぐり抜け、そのまま戦場へ向かっていきました。

現在我が家では、畑の野菜を狙ってタヌキが山から道（けもの道）を作って出没しますが、私たちも当時は、けもの道なる道を作って畑を荒らしたのだと思います。

その戦争ごっこもしばらくして先生の知る事となり、一人の負傷者も出さずにめでたく終戦を迎えることになりました。もちろん、自慢の武器とポケットにパンパンに入った銃弾（大豆）は、たくさんの説教と共に没収されました。

勉強はもちろん、みんなで考え、工夫・利用する事も二小を囲む自然環境と赴任された先生方が教えてくれたのだと思います。

現在我が家では、8人中6人が二小で学んだ事になり、時代と共に現状は変われど、のどかな故郷の家庭的な小さな二小の良さを、最後の児童となる孫も存分に感じて学んでいる事を大変誇りに思います。

そして最後に、この場をお借りして当時の畑の持ち主様にお詫び申し上げます。



満開の桜森に包まれ建っていた木造校舎

## まほうの心

昭和38年度卒業 千田 有作

私は小学校時代から一貫して願っていた通りの生活ができている事に、驚きと感謝の念にたえません。

旧萩野第二小学校は急な坂道を登った丘の上にあります。そこは四季を感じさせる校舎でした。又、自分達と同じくらい活力のある先生方からのご指導は、毎日を楽しませてくれました。

### ■小・中学時代の思い出

地震で小学校の校庭が数メートルに渡りパッキリ割れた・・・予備知識の無い怖さ。

へビの抜け殻やカマキリなら平気なのに、小学校の便所を這ううじ虫が怖かった。

雪相撲で足を滑らし肩を骨折。3ヶ月間接骨院に入院・・・忍耐力を学べた。

中学校の校長先生の英断で栗駒登山が決行・・・雲の上から見る下界の風景に大感激。

一方で日々平穏に過ぎていく幼少の時代、何か物足りなさを感じていた事は隠せない事実です。小学5年の時のテレビ番組のマジックの放送が、それからの考え方を一変させました。テレビ番組を通してではありませんが、“こんなふしぎで楽しい事があるんだ！マジックが日常にある生活がしたい！！”この一念が、生涯の生活基盤になりました。

小・中学時代の田舎のどこを探しても、マジック用品は探し得ませんでした。かろうじて祭りの夜店とかで、それらしきものを購入した記憶があります。

「縮むジャックナイフ」「パタパタ」「踊るへビ」「バラバラセンス」「粘ネバ」など。又、中学の時、マジックの洋書（数学トリック）の翻訳版を入手できた事はラッキーなことでした。勿論、内容等は理解の範囲を超えていましたし、さほど面白く感じられませんでした。好奇心が人一倍強い時期でしたので、何度も読み返しました。

私はどちらかと言えば、あらゆるものに変化があってほしいと望んでいます。自分が知らなかったものがいっぱいあれば実に楽しく思えます。しかしながら好奇心の少ない人は楽しめる範囲が狭いと思われる。勉強する事や、遊ぶ事は好奇心を大きくしてくれます。

生物や動物に人間の様な意志があるとは思いませんが、自ら体の色を変えたり体形そのものをガラリと変える「変態」をくり返し大人になります。それは成長に応じた食べ物の入手環境確保の為であり、なにより子孫の存続に関わるからと思えます。

学校の再編は、誰にとりましても大きな変化をもたらします。校歌も先生も友達も違って来るであります。その一つひとつを自分の力としてほしいと思います。



夏空子ども会（昭和30年代）

## 子どもは地域の宝

昭和41年度卒業 千田 修子

萩野村に2つ目の小学校として、住民の力によって作られた我が母校、萩野第二小学校は私にとって掛け替えのない宝物です。それは小学校そのものの経験であると共に、それを取り巻く地域の皆さんの温かい慈愛でもあります。年齢を重ねるに従って、自分は地域の皆さんに温かく見守られ、慈愛を受けて育ったんだなあと思う事が多くあります。萩二小の校風である素直で前向きな感性が今の自分の生き方の軸になっているとつくづく思うのです。萩二小への感謝の思いを表したく、思い出の一端を綴ってみたいと思います。

旧校舎は、校庭より一段下がった南側にあり、桜にすっぽり囲まれた2階建ての木造校舎で、私の3人の子どもたちもお世話になりました。

春の日に輝く薄桃色の桜の重なりがとても好きでした。桜の散る頃は、朝掃除の6年生が毎朝校庭に上がる階段に吹き寄せられた桜の花びらを掃き清めるのが日課でした。遊び時間には、外に出てみんなで遊びました。馬跳び、ゴム跳び、ドッジボール、鉄棒・・・とよく遊びました。雨の日には、教室でお手玉やおはじきで遊びました。上手な友達がいて、私も上手になりたいと皆競うように遊びました。

夏は暑い夏休み。子ども会の勉強会では、6年生が長机を用意し、静かに夏休み帳などの宿題をしました。プールはないので、川の水を堰き止めてもらって水泳ぎをしました。高学年がよく下の学年



のお世話をしてくれました。

秋は校庭の桜が紅葉し、落ち葉掃きが日課でした。学芸会の頃には、日暮れが早くなり、夕焼けの美しさを眺めつつ、歌を歌いながら帰りました。肌寒くなってくると、掃除の雑巾水が冷たく感じます。宿直室の側のお風呂からぬるま湯を汲んできて掃除に使いました。

校舎よりずっと下の道路の所にある井戸から大きなバケツ2個を使って、何度も水を運ぶのも6年生の仕事でした。うっかり水をこぼそうものなら2回目からつるつる滑ってしまうので慎重に運びました。

冬には達磨ストーブが入ります。火をつけるのは子どもの仕事でした。日直は焚き付けの新聞や薪を細かくした物を登校時に持って行き、職員室からマッチを借りてストーブに火を入れるのです。寒い中遠くから歩いて来る友達や先生のために教室を温かくしておくのは当たり前の仕事でした。

今以上に季節を感じ、季節に合わせて生活した小学校時代。小さくとも子どもを大切にす地域住民の思いはどこにも負けない萩二小でした。時代により学校は姿を変えていきますが、これからも「子どもは地域の宝」としてみんなで慈しんで育てていきたいと思います。



## 学舎の閉校に寄せて

昭和46年度卒業 鈴木 秀一

二小が閉校し、金成中学校とともに一貫教育校になると知ったときは、地域のシンボルの消失を理解しつつも寂しさを押さえきれませんでした。

二小の思い出は、たくさんあります。

毎日、教室や廊下を雑巾がけしたこと。

出席番号は一番で、整列するときも小さくて一番前だったこと。

自転車通学で学校に着いたらカゴに入れたはずのランドセルが無く家に戻って遅刻したこと。

学年で一番足が遅くても部落対抗リレーに出なくてはいけなかったこと。

声も悪く合唱のメンバーに選ばれず、放課後が寂しかったこと。

チョちゃん工夫を凝らした脱脂粉乳がおいしかったこと。

だるまストーブでやけどしたこと。

昼休みにブランコに夢中になり、午後の授業時間も続けて遊んでいたら先生が迎えに来たけれど、怒られなかったこと。

中江川で釣り大会があって、ギンギョという魚を初めて見たこと。

先生が軽自動車での初出勤に側溝に脱輪してしまい、皆で助けたこと。

算数と水彩画を先生にほめられたこと。

優越感より劣等感が勝ることが多かったの

ですが、人としての基本中の基本を楽しく学ばせていただきました。先生方の思慮深い指導とあるがまを受け入れてくれた同級生や地域の方々のお陰様だったと今更ながらそのありがたさに気づかれます。

金成地区内の小学校がそれぞれ培ってきた良き伝統と校風を紡ぎ、新しい学校で新たな歴史を明るく健やかに刻んで欲しいと願います。



授業の様子（昭和40年代）



**萩野第二小学校閉校に寄せて**

昭和51年度卒業 熊谷 等

私と父が通った木造でちょっと暗くて、歩くとギシギシ音になる廊下、夕方暗くなると1人では少し怖い感じの旧校舎、モップにたっぷりのワックスを浸け、競争しながら塗りたくり、教室の床だけでなく運動着もピカピカに光り輝かせたものでした。

校庭にはPTAの皆さんが、古くなった電柱を階段状に並べて立てたり、平均台にしたり、古タイヤを半分埋めた跳び箱、手作りのアスレチック遊具を作ってくれました。そして電線を巻くのに使用していたケーブルドラム、直径50cmから1m位まで様々で、その上に乗り、転がして遊んだものです。

本校、分校の統合と合わせ、現在の緑の屋根の可愛らしい校舎に代わり、私の3人の子どもたちが入学し、大変お世話になりました。どの教室も明るく、設備も整っており素晴らしい環境だと感じました。校庭の遊具はジャングルジムと回旋塔、私が子どもだったら遊びたかったなあと感じたものでした。私たちが遊んだ遊具類は怪我をする危険性があるという事で、再び作られるということはありませんでしたが少し寂しい気持ちもありました。

12年間、PTA会員として活動に参加させて頂いた中で、年々減少する児童数を考えると、本当にこのままで良いのかと感じました。小さい学校が故、行き届いた教育指導を受ける事ができました。陸上大会や水泳大会、発表会など、ほとんどの子が参加し、年長になれば縦割班のリーダーとして責任を持つ事の大変さと大切さを体験することができます。小回りが効くので行事等もスムーズに行なわれてきたと思います。栗原市の一輪車大会で11年間連続優勝や、伝統となった天神森太鼓、シエスタとの交流、地域の清掃活動など、これからも引き継いでいってほしい思いもあります。

自分が現場にいた時、少数の学校ではやりたいこともできないとか、競争力が足りなくなるなどと学校再編に賛成して参りました。不思議なものです。その時気付かなかったものが、いざその場を離れ、現実に閉校を目の前にすると、こんなにも小規模校ながら良い所、楽しかった思い出しか頭に浮かんで来ないんですね。

萩野第二小学校への惜別の想いと、今まで萩野第二小学校を支えて下さった先生方、PTA、地域の皆様に感謝申し上げ、新しい小中一貫教育校の成功発展を祈念いたします。

**萩野第二小学校とその後の新小学校へ**

平成54年度卒業 佐藤 栄利子

沢山の思い出と共に萩野第二小学校を卒業した私は、新校舎になると、国道を通る際に「可愛い学校になったなあ」という程度に見るばかりで縁遠くなり、昔の思い出も思い出さずとなく過ごしていました。しかし、親となり我が子が入学すると、不思議なことに校歌を唱えることに感激し、自分自身の小学校生活を繰り返している様に思いました。1年生教室の小さな机に感動し、廊下の様々な展示物に心を奪われ笑顔が溢れました。元気よく挨拶する子どもたちが、校庭で伸び伸びと走り回る姿や、プールで楽しそうにはしゃいだり泳いだりする姿を見て、萩野第二小学校は本当に良い学校だと感じることに、親子共々同じ小学校に通えたことを嬉しく思いました。

閉校して学校がなくなる事は、とても淋しく思いますが、年月が過ぎて忘れてしまった様に思っても、心に残った体験はいつの日にか思い出し、懐かしむ事が出来ると思います。運動会や学芸会の行事だけでなく、奉仕作業やPTAの会議さえ良い思い出です。初めて2階に上がってドレミファホールを見下ろした感覚はとても気持ちの良いものでした。萩野第二小学校はとても安心の出来る良い学校でした。震災でも被害が少なく、体育館も無事で、学校から卒業生を送り、新入生を迎えて頂きました。親として安全性の高い学校は何よりでした。新しい学校もそうであってほしいと願っています。思い出深い学校を無くして新しい学校を造るのですから、本当に子どもの生活を考えた過ごし易い学校であってほしいです。子どもたちが毎日一つ一つ思い出を作り、卒業してからも思いを寄せられ、我が子にも通わせたいと感じる素敵な学校、萩野第二小学校の方が良かったと言われることのない学校になってほしいと思います。

小学校は誰もが通い、一番最初の思い出の場所になると思います。友達を大切に、行事を楽しみ、勉強し、覚えることの楽しさを知る所だと思います。思い出の学校を心に残して、新しい学校に期待で胸を膨らませて新生活をスタートしてほしいと思います。地域の方々にも協力して頂いて未来に向かって更に良い町、良い学校になれるように心掛けて行ければ、今まで子どもたちを見守っていた萩野第二小学校も安心して休めると思います。今後は、建物として良い活用が出来たら幸せだとも思います。私たちの大好きな萩野第二小学校、長い間本当にお世話になりました。



### 小学校の思い出と閉校に寄せて

平成元年度卒業 千葉 耕太郎

私が萩野第二小学校を卒業したのは25年前になります。小学校って懐かしいなと感じたのは、4年前娘が入学し、体育館に飾ってある卒業制作を眼にした時でした。（これが完成するまでがんばったなあ）思わず隣にいた娘と妻に「これ、お父さん達が作ったんだよ！」と自慢していました。

今でもその卒業制作を見ると木造校舎での思い出が蘇ります。図書室で床に寝っころがって本を読んだこと。野球の練習をした校庭、運動会、学芸会。私達の卒業制作は、そんな思い出のたくさん詰まった木造校舎を浮き彫りにすることでした。卒業制作で遅くなり、暗くなった帰り道を歩いていると、大人になったような感覚がしたのを覚えています。

そんな校舎も卒業してから数年後、木造2階建てからモダンな明るい建物になりました。今は二人の娘が通い、また小学校に行く機会が増えました。児童数は減りましたが、子どもたちの元気な挨拶と笑い声は変わらないなと感じています。運動会での一輪車や、天神森太鼓に感動させられ、また、わが子が歌う校歌と同じ母校で学んでいるのだなあと感じさせてくれます。

山間の少し高いところに桜で蔽われるように建つ歴史と伝統のある萩野第二小学校。今年度で閉校することは本当に残念なことです。

しかし、自分を育ててくれた大切な母校であることに変わりはありません。子どもたちも閉校に淋しさを感じている様子ですが、先日の交流会で少し不安が消え、期待に変わったようです。これから子どもたちには、萩野第二小学校で学んだことを活かし、来年度から始まる小中一貫教育校で新しい歴史を仲間と共に築いてほしいと思います。



卒業記念（平成元年度）

### タイムカプセルの思い出

平成6年度卒業 千田 さおり

萩野第二小学校を卒業してもうすぐ20年。母校が閉校するのはこれで二度目だ。

平成7年3月。卒業と同時に普賢堂分校が閉校した。閉校式では在校生全員でタイムカプセルを埋め、10年後に皆で集まることを約束した。数日後、校舎の取り壊しが始まった。私は友達と一緒にその様子を見に行った。作業はあっという間だった。校舎があった場所に立ち、どこに何があったのかを想像してみた。こんなに狭かったかな、と正直驚いた。そして、隅に落ちていた瓦の欠片を持ち帰った。数センチの小さなものだったが、重たく感じられた。今でもその欠片は机の中にしまっている。

その後、普賢堂分校跡地は野外活動センターとして使われるようになった。夏になるとキャンプをする人たちを見かけた。校舎があった場所や校庭にテントが張られた光景は不思議だったが、にぎやかな声が聞こえると嬉しくなった。

タイムカプセルを開けるまでの10年間は、野外活動センターの前を通る度にカプセルのことが気になって仕方なかった。そう感じていたのは私だけではなかったようだ。

平成17年1月。その当時の在校生だけでなく、先生方やPTAの方々にも出席していただき、タイムカプセルを開ける会が催された。久々の再会に、当時の思い出話に花が咲いた。

運動会での一輪車の演技発表に向け技を磨いたこと。一輪車大会での優勝を目指し、夏休み中も毎日必死に練習したこと。統合後も後輩たちが連覇してくれたことを聞き、活躍を喜び合ったこと。校庭で作った豚汁、祖父母参観日のお餅、図書室で食べたカレーライスが美味しかったこと。懐かしい話題があちらこちらで聞こえていたことを、10年近く経った今でも覚えている。

震災後、残念ながら野外活動センターは使われていない。けれども、同じ校舎で小学生時代を過ごした仲間達、先輩方、学校を支えてくださった先生方や、地域の方々。普賢堂分校での思い出はしっかりと私達の心の中に生き続けている。

母校が閉校してしまうのか、と思うと寂しいが、二小は多くの人たちの心の中にずっと生き続けていくはずだ。閉校を悲しむのではなく、二小の卒業生であることに誇りを持って生きていきたいと思っている。



普賢堂分校閉校式（平成6年度）





**萩野第二小学校ありがとう**

平成14年度卒業 三浦 寿伸

祖父、父、私と3代お世話になった萩野第二小学校が平成25年度で閉校になると聞き、とても残念に思っております。小学校での楽しい日々を思い出すと、我がふるさとが失われるようで寂しい思いになります。これも時代の流れでしょうか。

私は埼玉から引っ越してきて、不安と期待を持って萩野第二小学校に入学しました。自然に囲まれ、当時から少ない人数でしたが、とても活気のある学校で楽しく過ごさせて頂きました。私の学年は11人で、男子8名、女子3名と男子が多く元気のある学級でした。当時の先生は大変苦勞なされたのではと思われます。その中でも、特に思い出として残っていることは、私が5年生の時に学校の伝統である「天神森太鼓」が、「新天神森太鼓」に変わり、新しい歴史が生まれたことです。毎日のように放課後、クラスみんなで練習したことは今も忘れられない思い出のひとつです。伝統ある太鼓が無くなってしまふのは残念ですが、私たちの心の中には永遠に残ることでしょう。

また、子どもたちで田植えから米作りをし、収穫した米を自分たちで料理をしたり、地域の方々と収穫祭として交流をしながら食べたりと地域との繋がりも深い学校であったのが萩野第二小学校だと思います。

萩野第二小学校には小学生の時だけでなく高校、大学時代にもプール監視員として通ったことがありました。年を重ねるごとに徐々に子どもの人数が減るのですが、「よい子、強い子、正しい子」と校歌にもあるように萩野第二小学校の子どもたちは、どの子も立派に成長していて嬉しく思いました。

萩野第二小学校がなくなるのはほんとうに寂しいことですが、小学校での思い出はいつまでも一人一人の心の中にあるものと思います。そして、子どもの頃の思い出をこうして振り返る機会をいただいたことに、感謝申し上げます。最後に萩野第二小学校「さようなら」そして、あの頃一緒に過ごした友だち、先生方、地域の方々、そして萩野第二小学校に「ありがとう」。

**萩三小の良いところ**

平成21年度卒業 佐藤 佑香

私が萩野第二小学校に転校してきたのは、5年生の時でした。校舎がとても綺麗で小学校とは思えないほどでした。そして、みんなの前で自己紹介をした後、これが全校児童だと知った時の衝撃は今でも忘れません。30人ほどしか居なかったからです。しかし、この少人数だからこそできたことがたくさんありました。いくつか紹介させていただきたいと思います。

まず、全校児童の仲が良かったと思います。よく聞くフレーズですが、二小のように子どもたちや先生方が全員の名前を言えるような学校は少ないのではないのでしょうか。たてわり活動でのゲームや、学芸会での全校ダンスなどふれあえる時間がたくさんありました。冬にドレミファホールに集まってみんなで給食を食べたのは、まるで家族のようでとてもあたたかくなりました。

次に、勉強する環境が整っていました。マンツーマンのような授業は私達に居眠りする隙を与えず、先生方も一人一人を見てくれるので、今思えばすごく良い環境でした。おかげで、小学校の頃の成績はそこそこ良かったと思います。運動面でも、毎日マラソンの時間があったり、高学年全員で陸上や水泳の大会に出たりと、体力づくりをする場面が多かったです。正直しんどかったけれど、大会に出るのはなかなかできないことなので、良い経験になりました。

最後は、一人一人が主役になれるというところです。運動会の徒競走では一人ずつ目標を発表したり、学芸会では、一人何役も何十もセリフがあったりとお家の方はシャッターチャンスがありすぎて大変だったのでは・・・と思うくらいチャレンジできるチャンスがたくさん与えられていました。そして、そのおかげで自分も自分の殻を破ることができました。二小に来なければきっとできなかったのが本当に良かったです。

天神森太鼓や新天神森太鼓、一輪車、二小の校歌やたてわり活動など、二小の良いところは、ここには書ききれません。

そして、それがなくなってしまうのかと思うと、寂しいです。二小での生活は忙しいながらもとても充実していました。この思い出は一生忘れることは無いと思います。私を変えてくれた萩野第二小学校に感謝しています。また遊びに行くからね！



《にゅうがくしき》  
 にしょうににゅうがくできてうれ  
 しかったです。2ねんせいから  
 6ねんせいというたつたさんまが  
 じょうずでした。ちよとさんちよう  
 しました。

《1ねんせいをむかえるかい》  
 ゲームをしたり、すきなあそびや  
 すきなたべものを はっぴよう  
 したりしました。わたしたちの  
 ためにありがとうございます。

《うんどうかい》  
 チェッ チェリリのたまいれが  
 たのしかったです。つなひきも  
 1かいがちました。か けっや  
 リムもがんばりました。

《こうつうあんぜんきょうしつ》  
 おまわりさんに いろいろおしえて  
 もらいました。おまわりさんと  
 しけんをとってたのしかったです。  
 こうつう あんぜんにきをつけず

《こうないすいいたいかい》  
 きしゃまうほ きょううや、もぐり。  
 こ、ピートばんはたあしが  
 たのしかったです。およげるよう  
 になつうれしかったです。



《しらはぎタイム》  
 たてわりチームで トッジボール  
 や おにごっこをして たのしか  
 たです。みんなで なかよく  
 できました。

# 1年

《かいこうきねんび》  
 からこうか140さいときいて  
 びっくりしました。たんじょうび  
 おめでとう。これから  
 あそびにきます。

《さんすうスキルタイム》  
 ホールでみんなてべんきょう  
 しました。せんせいたちに  
 まるをつけてもらった。りめあ  
 をきめてかんばりました。

《お世話になりました》  
 元気な二小の子どもたち、思いや  
 りのある家族の皆さん、温かい地域  
 の皆さんに囲まれた7年間。  
 本当に楽しく過ごせました。  
 ありがとうございます。





# 2年

ニ小でのおもいではいんそくです。みんなといっしょにいろんな花を見てたのしかたです。これからまたのべながよくほしいです。

ーりん車はひょうは今年でさいごだけ。たいせつな思い出がす一年生のとき5月にのれました。さいしよはおにいちんにかしてもらいました。ーりん車をこいだりできるようにしました。おひ年もこでならたことをわすれません。

わたしのニ小でのおもいではいりん車です。メリーゴーランドをやるのがたのしかたです。ほうがこにいっばいれんしゅうしましよ。これからニ小の友だちとながよくしたいです。

ニ小でのおもいではいりん車です。ーりん車けんていかたのしかたです。わたしはスワリントのれんしゅうをかいはつてこうかくしました。これからかいはります。



わたしはニ小でたいこをたたいたのがおもいでです。てんじんもりだいはニ小のでんじうです。おんがくさいにでたのしかたです。これからニ小でまなぶことをわすれません。

今までいいちしよかんかいはつたのは、うんどうかいです。とくにーりん車は、びょうかおもいでにのこっています。これからかいはります。

ぼくのニ小でのおもいで、べんきうでま水のかそかたのしくて、みんなで"コップ"しこ水をいれてべんきうをしました。これからニ小の友だちとながよくしたいです。

ニ小には、ーりん車や水競など素晴らしい伝統があります。運動会で全校でーりん車発表を成功させた時は、とても感ずりました。また、ニ小のみんなはとても素直で優しく、温かい気持ちを持っています。この良さを、これからも大切にしていきたい。

2年担任



# 3年

ぼくは、1年生のとき、こわれて登れなかつたツヤクルジムに2年生になつて少した、たら使えるようになったのはじめて登りました。登ってみたらきれいでした。そのときよかったです。今でも心にのこっています。

1年生ではじめて1輪車で1年間でできるようになりました。さいしょは車云でばかりで、垂れなかつたけど上手にできるようになりました。1年生たつたけれど、1年ぶりでもできました。うれしかったです。

ぼくは、ハノ山動物公園でレッサーパンダやワラビーを見ました。バックヤードでアビシニアコロブスにえさをあげました。楽しかったです。



わたしは、はじめてたのびたたりた時うまくたけなかつたけれど練習をして、みんなできごと一つにたつた時うれしい気持ちになりました。天神森たのびまが心にのこっています。

わたしの心にのこっていることは、一りん車です。その中で、中風車が心にのこっています。何回もバランスをくずして、まわってできなかったのに、成功しはりました。

3年生の運動会のときよく走ることができました。走っていると、おこされたけれど、おこして1人になったのでよかったです。初めて1人だったのがうれしかったです。

閉校する年にすぎな校舎の萩野第二小学校に勤務することができたこと、明るく元気いっぱい、素直な子どもたちと出会った縁を嬉しく思います。気持ちのよい「あいさつ」と「笑顔」、一輪車や太鼓に真剣に取り組む「一生懸命さ」。素晴らしいと思います。金成小中一貫校でも二のよさを持ち続け、がんばってほしいです。

# 職員室の先生方

萩野第二小といえば明るく元気のいい挨拶。一輪車の練習で転んですり傷をつくりながらも頑張る強さ、ゴミ拾い遠足で、長い距離を最後まで歩きぬく気力。その姿から、私もパワーをたくさんもらいました。心も体も元気いっぱい。二小っ子。小中一貫校でもその良さを発揮して、いってほしいと願っています。

閉校の仕事にたずさわって、母校である二小や分校に寄せられる保護者の皆様、地域の皆様の思いの強さを改めて感じました。子どもたちには、二小で学ぶことに自信とプライドを持って歩いてほしいと思います。  
H22年度～25年度 教頭



私は平成23年に萩野第二小学校に着任しました。初めての小学校勤務ということもあり、戸惑いながらも先生方に助けてもらいながら仕事をしてきました。子ども達には新しい学校でたくさん友達を作って楽しく過ごして欲しいと思います。お世話になった学校が無くなるのは寂しいですが、一生懸命閉校事務に当たりたいと思います。3年間ありがとうございました。

萩野第二小に転任してきて1年。「かしこく」「やさしく」「すこやか」な子どもたちの笑顔と地域や保護者の皆様の温かさにふれ、「もっとこの学校にいたいな。」というのが正直な気持ちです。一貫校での二小っ子の活躍を心から願います。

萩野第二小での思い出は、いつも明るい子供たちのあいさつと笑顔です。





# 4年

ぼくが一番の思い出にのこっているのは、水泳記録会で100mのCXPドルを泳いだことです。初めてこんな風に泳げてうれしかったです。

ぼくの1番の思い出は運動会の時にした一輪車の発表会です。大技の大車車輪やむずかしいトンネルが成功したからです。

ぼくにとってニ小の記憶に入りの場所はジャングルジムです。ジャングルジムのてっぺんに登ると気持ち良い風がふいていてぼくがおちつく最高の場所です。

わたしの一番の思い出は、大好きな一輪車です。あざかできてたくさん練習し、四年生になるとバックもできました。発表では心を一つにかんぱり大成功でした。

ぼくが一番思い出にのこったことはみんなと雪で遊んだことですがまくらを作っていたりいつの間にかすべり台作りになっていました。楽しかったです。

私の思い出は、4年生の時の水泳大会です。理由はせ泳ぎで5位になり入賞したからです。良南ちゃんも入賞し、うまいも、賞はうまいもったのですごいなと思いました。私も5位でびっくりしました。



わたしのニ小での思い出は、1年生のとき一輪車にのれたことです。何回も練習をしてのれるようになりました。のれたときとてもうれしかったです。

一番の思い出は、3年生で初めて放火演習ができたことです。理由はわかったことのないアサウンスができたことです。

私の一番の思い出は、1年生の春に、初めて一輪車でほんまに走れたことです。何回も転んですりおいたりしたけれど、初めてのねてとてもうれしかったです。

ぼくが一番の思い出は、4年で初めてクロール25m泳げれたこと。理由は楽しく泳いで泳げれたから25m泳げれたからです。

ニ小での思い出は、学年の時の委員会でぼくはほいほいさうな委員会委員の放送で放送室からアサウンスの前にはた日とてきんをうらまはせられニ小での思い出です。

ぼくは4年生の運動会のことがいっしょに出た。4年生で一輪車一人いっしょができて、みんなと手をつないで、こけてすごうれしかったです。一輪車をかいられたです。

この温かな萩野第二小学校に勤務でき、とても幸せでした。地域・保護者の皆様にもいつも力をいただき、子どもたちのひたむきに学び、子どもたちのがんばる姿に元氣をもらいました。陸上の県大会・全国大会に選出される人材の豊富さにも驚くばかりです。一輪車・天神森大坂も、私にとって大切な宝物となりました。今まで本当にありがとうございました。





# 6年



ぼくの1番の思い出は太鼓です。4年生の時にセンターをしてがんばり、たからです。センターをしてきん張したこともありました。4年生の時の音楽祭で大成功してうれしかったことが1番の思い出です。「はい！」と元気に言うことが出来ました。

私の思い出は、陸上で、全国大会まで行ったことです。日産スタジアムで高跳びをして、自己ベストを出せし、7位入賞もできたので、良かったです。友達もできたので、いい経験になりました。



6年生の1番の思い出は水泳大会です。私は4年生になってモクロール25mを泳げなくて練習をたくさんしました。水泳大会でクロール25mに参加し1位をとることができました。



私の1番の思い出は6年生で、水泳大会です。夏休み中も練習し、1度中止になってしまいましたが、行くことができました。25mバタフライとメドレーリレーで見事3位をとることもできて、最高の思い出になりました。



みんなにやさしく、そして、何でも元気いっぱい最後まで頑張る二小のみんなと楽しく過ごすことができました。運動会で一輪車の演技を見た時の感動を忘れません。すごい！！

担任

ぼくの1年生の時の思い出で、一番楽しかったことは一輪車です。毎日早くして練習しました。アクリートの上で転んでケガをしたり、頭から落ちたりもしたけど一人乗車ができるようになりました。



萩野第三尋常小学校創立当時（昭和4年）



普賢堂分校旧校舎（昭和16年）



卒業記念（昭和24年度）



5年生集合写真（昭和20年代）





学芸会(昭和39年度)



地域清掃活動(平成21年度)







餅つき



校内球技大会



脱穀



日本陸上競技選手権大会 宮城スタジアム (平成12年度)



普賢堂分校集合写真 (平成6年度)



栗原市小学校陸上競技大会 (平成25年度)



天神森太鼓打ち納め式 (平成25年度)



## 編集後記

閉校記念誌部長 千葉 和義

この度、皆様のご協力により閉校記念誌を発行することが出来ました。歴代の校長先生や先生方、諸先輩方やお世話になった皆様に、ご寄稿をいただきありがとうございました。

皆様の原稿を拝見していると、私も小学校の時のことを思い出しました。

冬の朝に、チヨちゃんが石炭ストーブを焚いてくれたときは、とても温かったです。しかし、高学年になると日直が点けるので、午前中は不完全燃焼の日があり寒むかったことを思い出しました。

また、萩野第二小学校は地域の皆様のいろいろな想いにより育てられ、地域のシンボルとして二小は大事にされてきたんだと感じました。

これからは、新しい小中一貫教育校が金成地域の学校となります。私たちは、諸先輩方を見習い、この新しい学校を地域のシンボルとし育てていきたいと思えます。

最後に、この記念誌発行にあたり、先生方、編集員の皆様のご協力により、完成することが出来ました。本当に、ありがとうございました。

## 閉校記念誌編集部員

千葉 和義	阿部 浩之	菅原 悟
及川 幸子	千田 裕子	石川夏奈子
田中加代子	千葉 隆弘	千田 広幸
熊谷 則男	石川 久美	



秋の徒歩遠足 旧普賢堂分校にて（平成25年度）



## 栗原市立萩野第二小学校閉校記念誌

発 刊 平成26年3月

発 行 栗原市教育委員会

企画・編集 栗原市立萩野第二小学校閉校記念事業実行委員会

萩野第二小学校 校歌  
 作詞 大友 真一郎  
 作曲 堀江 四郎  
 その名もおれ 白萩の  
 若い芽清くたくましい  
 よい子 強い子 正しい子  
 みんな健やか気も朗らかに  
 学べよ 萩野第二小  
 窓へに光る 中江川  
 普賢の教えうけついで  
 よい子 励む子 素直な子  
 みんな仲よく手をとり合って  
 伸びろよ 萩野第二小  
 天神森の 杉のよう  
 青空高く夢を抱く  
 よい子 明日の子 郷土の子  
 みんな希望に胸ふくらませ  
 進めよ 萩野第二小  
 昭和六十三年卒業生一同

